

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

# CSR レポート 2016



編集方針

ADEKAグループは、社会の持続可能性を追求した活動や今後の方向性について、幅広いステークホルダーの皆様にお伝えするためにCSRレポートを毎年発行しています。「CSRレポート2016」では、2015年度における数々の取り組みのなかから特にお伝えしたい事柄について、重点的に報告しています。

なお、環境関連の取り組みに関する詳細な内容は、ADEKAグループCSRサイトでもご覧いただけます。今後もより多くのステークホルダーの皆様にご理解いただけるレポートづくりを目指していくため、添付のアンケートなどを通じて忌憚のないご意見をお聞かせいただくと幸いです。

報告対象範囲

ADEKAグループ全体を対象としますが、特に対象範囲を明示する必要があるときは、グループ全体を指す場合には「ADEKAグループ」または「当社グループ」、(株) ADEKAを指す場合には「ADEKA」または「当社」と表記しています。

報告対象期間

2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)  
※一部、2016年度における直近の活動を含む記述もあります。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

(財)日本規格協会  
「ISO26000:2010社会的責任に関する手引き」

本レポートには「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」による標準開示項目の情報が記載されています。

発行日:2016年7月

次回発行予定:2017年7月

※ ADEKAグループCSRサイト(<http://www.adeka.co.jp/csr/index.html>)  
※ 財務に関する情報につきましては投資家情報(<http://www.adeka.co.jp/ir/index.html>)もあわせてご参照ください。

企業概要(2016年3月末現在)

会社名	株式会社ADEKA
設立	1917年1月27日
代表者	代表取締役社長 郡 昭夫
本社所在地	東京都荒川区東尾久七丁目2番35号
資本金	228億99百万円
発行済株式総数	103,651,442株
連結従業員数	3,241名
事業内容	化学品事業、食品事業、その他事業



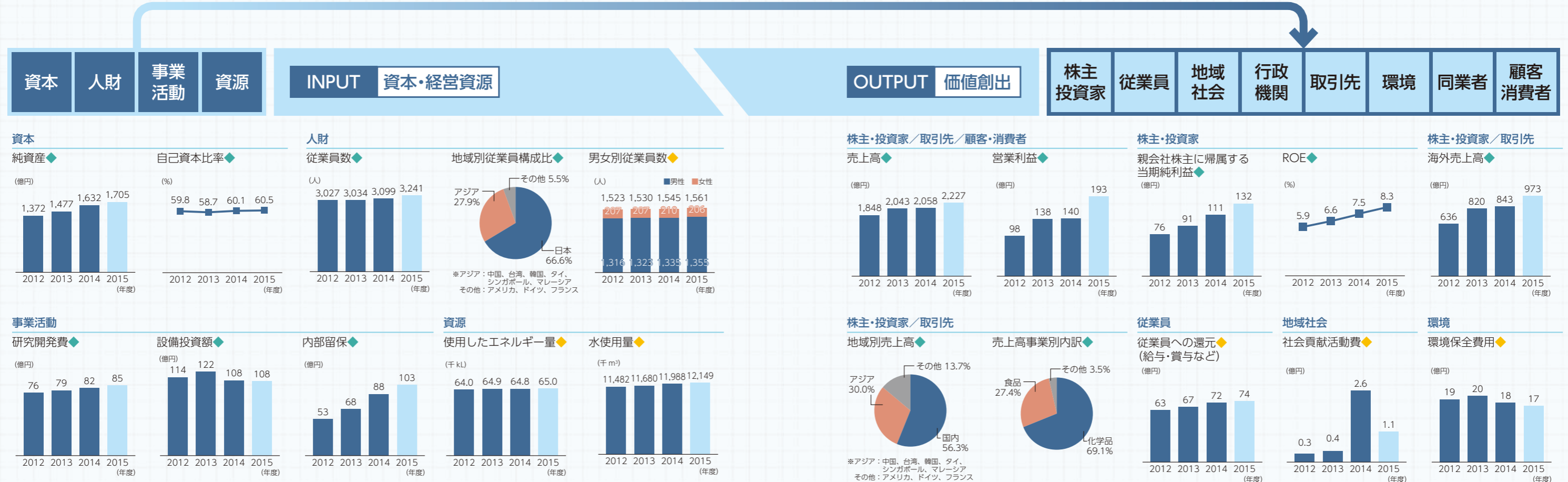
CONTENTS

- トップコミットメント ..... 3
- くらしのなかのADEKA ..... 5
- ADEKAの事業内容とネットワーク ..... 7
- ADEKA 100年のあゆみ ..... 9
- ADEKAグループの経営理念とCSR ..... 11
- 中期経営計画「STEP 3000-II」の進捗状況 ..... 13
- 特集  
ADEKAの樹脂添加剤事業とイントメッセント系難燃剤 ..... 15  
「ADEKAらしさ」を活かした「開発・製造・販売」三位一体のバリューチェーン
- CSRマネジメント ..... 19
- 製品安全に向けた取り組み ..... 21
- 特集  
安全に工場を運営していくために ..... 23  
海外グループ会社 環境・安全衛生活動
- 環境保全に向けた取り組み ..... 25
- 働きがいのある職場環境 ..... 29
- 労働安全衛生への取り組み ..... 33
- ステークホルダーとともに ..... 35
- 第三者意見/第三者意見をいただいて ..... 39
- 「ADEKAグループCSRレポート2015」アンケート結果 ..... 40

業績ハイライト

2015年度 ADEKAグループが分配した価値

◆ 連結 ◆ 単体





## トップコミットメント



ステークホルダーとの建設的な対話と、  
培ってきたチャレンジスピリットで  
グローバル・グッドカンパニーを目指します。

代表取締役社長 郡 昭夫

このたびの熊本地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

## 『ADEKA VISION 2025』～100年企業としての新たな志(こころざし)

1917年1月27日に創業したADEKAは、あとわずか100周年を迎えます。当社の設立趣意書には「本業また一日早むれば国民福一日早く至るを覚ゆ」という一節があり、当時の産業に欠かせなかったか性ソーダの国産化を一日も早く実現して、国家国民に貢献したいという強い決意が込められています。

当時の技術力で輸入品を凌駕する製品を作ることはきわめて困難でしたが、様々な試行錯誤を繰り返して、苦勞の末、高品質な国産品の生産にこぎつけました。

企業は社会の公器であり、世の中の役に立つ企業でなければならない。そのためには、常にチャレンジし続けなければならない。「志をもってチャレンジし続けること」こそが、100年近くものづくりに携わってきたADEKAの原動力であると考えます。

ADEKAグループではこの起業時の精神を受け継ぎ、2015年度に、「2025年度のありたい姿」として『ADEKA VISION 2025 (p13)』を掲げ、先進的な技術力で事業領域を広げつつ、グローバル企業として積極的に社会的価値を創造していくという“新たな志”を立てました。

## 新たな成長と社会貢献につながるチャレンジ

企業は、培ってきた技術力や人財力などの“持てる資産”を有効に活用してこそ、社会の役に立つことができます。ADEKAグループは、先進的な素材とソリューションを提供することによって、お客様をはじめとするビジネスパートナーの皆様とのwin-winの関係を実現し、社会的価値と経済的価値の向上を同時に追求して、社会に貢献していくことを目指しています。そして、社会とともにこのような共通価値を創造していくことを「共創」とし、ADEKAグループが一体となって取り組みます。

ADEKAグループは中期経営計画「STEP 3000-II」を策定し、海外展開を含むコア事業を中心とした規模拡大や、第3のコア事業および新規事業の育成を基本戦略として、「売上高3,000億円のグッドカンパニー」を目指しています。

2015年度は中国・新興国経済成長の減速などのマイナス材料があったものの、樹脂添加剤、食品のコア事業が堅調に推移し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高を更新しました。また、情報・電子分野においては競争力の高い独自製品が大きく伸長したほか、新素材グラフェンやインフルエンザワクチンの補強材の研究開発が始まるなど、ADEKAでは、今、新たな成長と社会貢献につながる様々なチャレンジを着実に実行しています。

## グループ従業員とのグローバルな「共創」で、“幸せづくり”を目指します

2015年度から、トップマネジメントに「攻めのガバナンス」を促すコーポレートガバナンス・コードが適用となりました。株主を含む多様なステークホルダーとの建設的な対話と適切な協働により、「会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上」を促していくことを求めるなど、本業以外の部分も含む広い意味でのステークホルダーとの「共創」を示唆するものと受け止めています。

会社や仕事に誇りを持ち、社員が一丸となって社会とグループの発展、また自身の生活や大切な家族のために働くことで、社員は幸せになれるものと私は考えます。そして、会社の持続的な成長とは、社員とともに、このような“幸せづくり”を「共創」していくことで実現するものではないかと考えます。

2015年度は、ADEKA労働組合もまた創立70周年の節目を迎えました。海外売上高比率も43.7%となり、当社グループの従業員数は、海外も含めて3,000人を超えるなど着実な発展をとげています。

「共創」の前提は“対話とチャレンジ”です。業容の拡大にはリスクも伴いますが、私たちは、より厳格なリスクマネジメント体制のもと、一人ひとりとの建設的な対話が可能なチャネルを開き、それぞれの個性や適性に見合ったチャレンジができる環境を提供しながら、グローバル・グッドカンパニーを目指してまいります。



# くらしのなかのADEKA

創業以来培ってきた確かな技術が、私たちのくらしのなかに活かされています。ADEKAグループは、持てる技術の粋を集めて、社会や環境に配慮した健康で豊かな社会に求められる製品・技術の開発に努めています。



**建築・土木構造物の塗料として**  
エポキシ樹脂／ウレタン樹脂  
金属やコンクリートの錆止め・防塵塗料



より強靱なインフラを構築するために

**止水材**  
コンクリート構造物の止水、  
漏水箇所の止水など



薄型テレビの液晶画面に  
**フラットパネルディスプレイ材料**  
映像機器の高精細化  
**光硬化樹脂**  
製造時の技術革新



大事な愛車に

**樹脂添加剤** 自動車の軽量化  
**潤滑油添加剤** 燃費向上、CO<sub>2</sub>排出低減



大好きなパンにも  
マーガリン、ショートニングなど  
「ふっくら、しっとりとした食感」を実現



愛用のスマートフォンに  
**半導体材料**  
電子機器の性能向上や省電力化  
**回路形成材料**  
光通信機器の品質向上



オフィスのすみずみに

**樹脂添加剤 (難燃剤)**  
プラスチックの難燃性を向上  
**過酸化水素**  
製紙原料の漂白など



おいしいデザートにも

ホイップクリームなど  
「乳風味と口溶けのよさ」  
「みずみずしいおいしさ」を実現



健康な生活を送るために

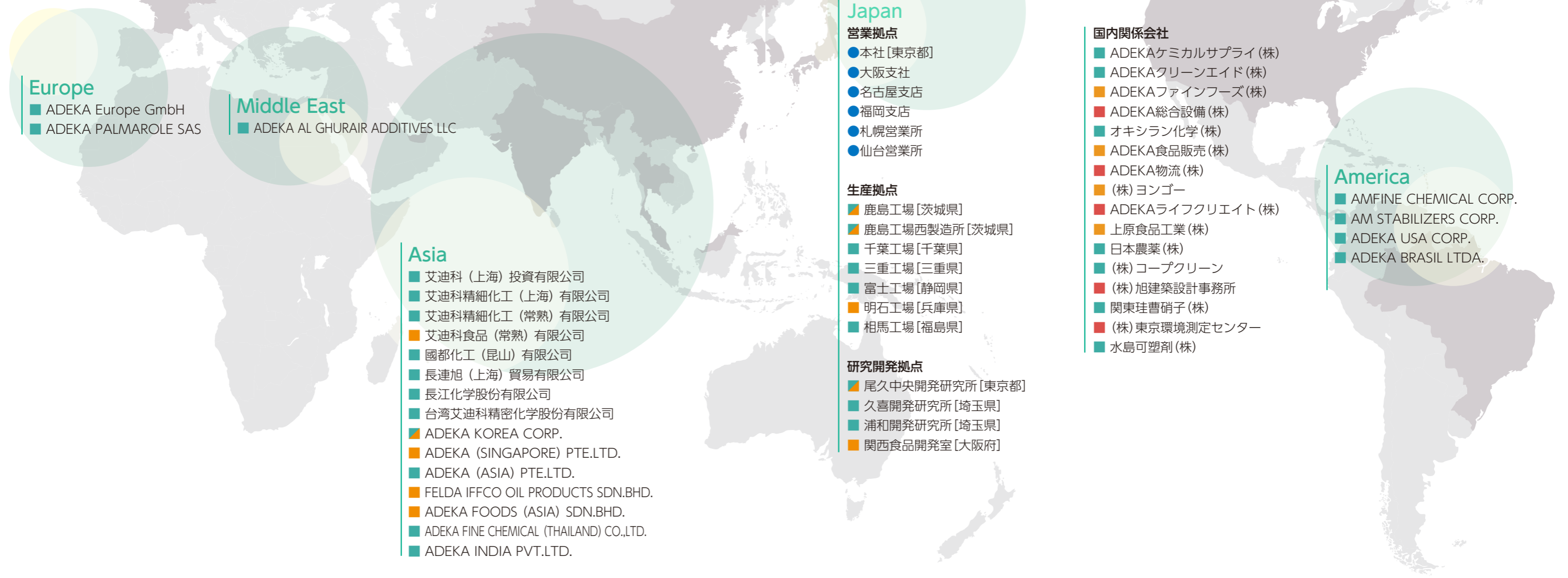
**界面活性剤**  
クリームや乳液、化粧水など  
**プロピレングリコール**  
洗剤、シャンプー、医薬品など



# ADEKAの事業内容とネットワーク

世界とともに生きる企業として、国内外のネットワークが連携しながら、事業領域の拡大と積極的な海外展開を行っています。

■ 化学品事業 ■ 食品事業 ■ その他事業



## 化学品事業

### 情報・電子化学品

液晶テレビやパソコン、スマートフォンをはじめとする電子機器向けに、最先端の技術を駆使した製品を提供しています。なかでも半導体材料は、世界最高レベルの品質を誇っています。

### 機能化学品

プラスチックの高機能化に欠かせない樹脂添加剤の総合メーカーとして、幅広い製品を製造しています。また、独自技術で開発した自動車用エンジンオイル添加剤や、安全性に配慮した高機能の化粧品原料などを提供しています。

### 基礎化学品

石鹸・洗剤などの日用品から、IT・エレクトロニクスまで、幅広い分野に製品を提供し、産業の発展に貢献しています。化粧品などに使われているプロピレングリコールは、当社が初めて国産化したものです。

半導体材料  
光硬化樹脂  
フラットパネルディスプレイ材料  
回路形成材料

樹脂添加剤  
界面活性剤  
潤滑油添加剤  
エポキシ樹脂、ウレタン樹脂

プロピレングリコール  
過酸化水素  
止水材

## 食品事業

「おいしさと安心のベストパートナー」をブランドスローガンに、常に業界をリードする食品素材を開発しています。製パン・製菓・洋菓子メーカーへ加工油脂や加工食品などを提供し、安心・安全で豊かな食生活の実現に貢献しています。

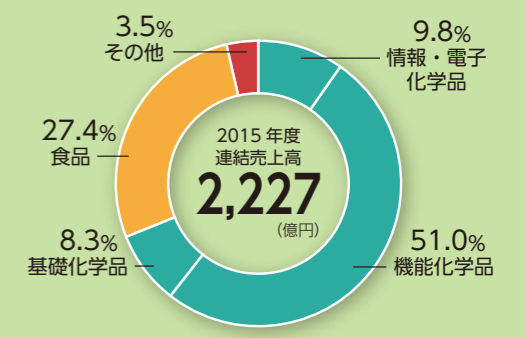
## その他事業

工場施設や設備プラントの設計、設備メンテナンス、物流業務、保険代理業務を中心に事業を進め、そのノウハウをベースに様々な分野のお客様にサービスを提供しています。

マーガリン  
ショートニング  
フライ・調理用油脂  
ホイップクリーム

プラントの設計・工事管理  
物流業  
不動産業  
保険代理業

### 事業別連結売上高の構成比





# ADEKA 100年のあゆみ

2017年に100周年を迎えるADEKAグループでは、創立当時の“本業を通じて人々の豊かなくらしを支えたい”という精神が、脈々と受け継がれてきました。



## 1917年～ 1940年代



上:尾久工場全景  
左下:か性ソーダ煮釜室  
右下:創業当時のか性ソーダ煮詰釜

### 幅広くユニークな事業展開の礎

創業の目的である“当時の国内産業に無くてはならないか性ソーダの国産化”に成功、生産時に副生する水素や塩素を利用して、石鹼やマーガリン、さらし粉など次々と暮らしを支える製品を生み出しました。第二次世界大戦中は、物資が切迫した状況でもイノベーション精神を発揮し、様々な有機化学品を開発して我が国の戦後復興を支え、「化学品と食品の二本柱」の礎を築いていきました。

当時のADEKA | 1917年

資本金  
**100万円**  
従業員数  
**115名**  
売上高  
**37,000円**

## 1950年代～ 1960年代



左:尾久工場内にあった円形研究所  
右:プロピレンオキサライドヒドリン塔

### 化学品・樹脂添加剤事業の基礎構築

当時は石油化学技術のほとんどを欧米に依存していましたが、当社が長年培ってきた有機塩素化技術を活かし、かねてから研究を続けていた樹脂添加剤(可塑剤)の販売を開始したほか、プロピレングリコールやエポキシ樹脂の国産化に成功。戦後の急激なプラスチック需要に当社独自の技術やノウハウで応えていきました。このときの研究開発は、現在の化学品事業・樹脂添加剤事業を支える基礎となっています。

当時のADEKA | 1959年度

資本金  
**10億円**  
従業員数  
**1,171名**  
売上高  
**87億円**

## 1970年代～ 1980年代



左上:当時のブランドマークとキャッチフレーズ  
右上:研究風景  
下:鹿島工場マーガリン製造ライン

### “ニッチでユニークな製品” 開発のための英断

高度成長期を経た1970年代以降の日本は、オイルショックなどによって省資源・省エネルギーが求められるようになりました。当社は、経営資源を研究開発に注ぎ、水膨張性シール材や潤滑油添加剤などの様々な“ニッチでユニークな製品”を世の中に送り出しました。また、より多くの人々の豊かなくらしに寄与するため、化学品・食品ともにラインナップを業務用に絞るという大きな決断を下しました。

当時のADEKA | 1976年度

資本金  
**22億円**  
従業員数  
**1,531名**  
売上高  
**535億円**

## 1990年代～ 現在



上:ADEKA 本社・尾久中央開発研究所  
下:ADEKA FOODS (ASIA) 工場竣工式

### 持続可能な社会を目指した 「グローバル・グッドカンパニー」へ

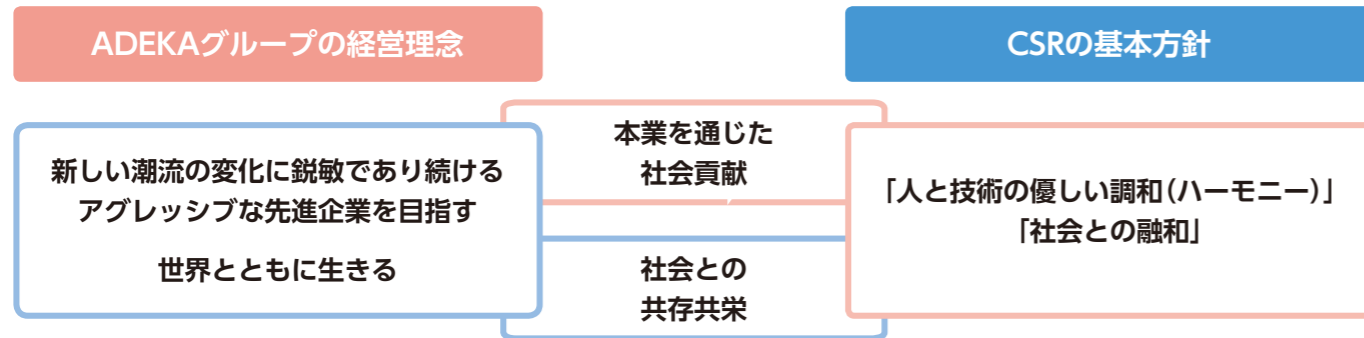
1996年に現在の経営理念を制定すると同時に経営革新に取り組み、高収益企業への転換を推し進めるとともに、海外展開を図ってきました。2000年以降、欧米、アジアなどに生産・販売体制を次々と構築していき、世界で活躍する企業へと成長を続けています。現在は、化学品と食品のみならず、ライフサイエンス、環境・エネルギーなどの新たな分野に挑戦するとともに、次世代材料や環境対応型製品の開発に注力し、持続可能な社会を目指した価値創造の取り組みを進めています。

現在のADEKA | 2015年度

資本金  
**228億円**  
従業員数(連結)  
**3,241名**  
売上高(連結)  
**2,227億円**



# ADEKAグループの経営理念とCSR



## ADEKAグループのCSR

ADEKAグループは、独自性に溢れる世界トップクラスの技術力で、グローバルな企業活動を展開しています。より先進的で高品質の製品・サービスが求められる熾烈な競争環境に、環境保全や製品安全に対する世界的な関心の高まりと規制の強化などの要因が加わり、当社グループを取り巻く経営環境は常に“潮流の変化”とともにあります。また、それに伴い、私たちが果たすべき社会的責任の範囲(バウンダリー)も常に変化し、拡大し続けています。

ADEKAグループの経営理念は、常にアグレッシブな姿勢で、そのような変化をしっかりと捉え、グローバルスタンダードで対応していくことを謳っています。

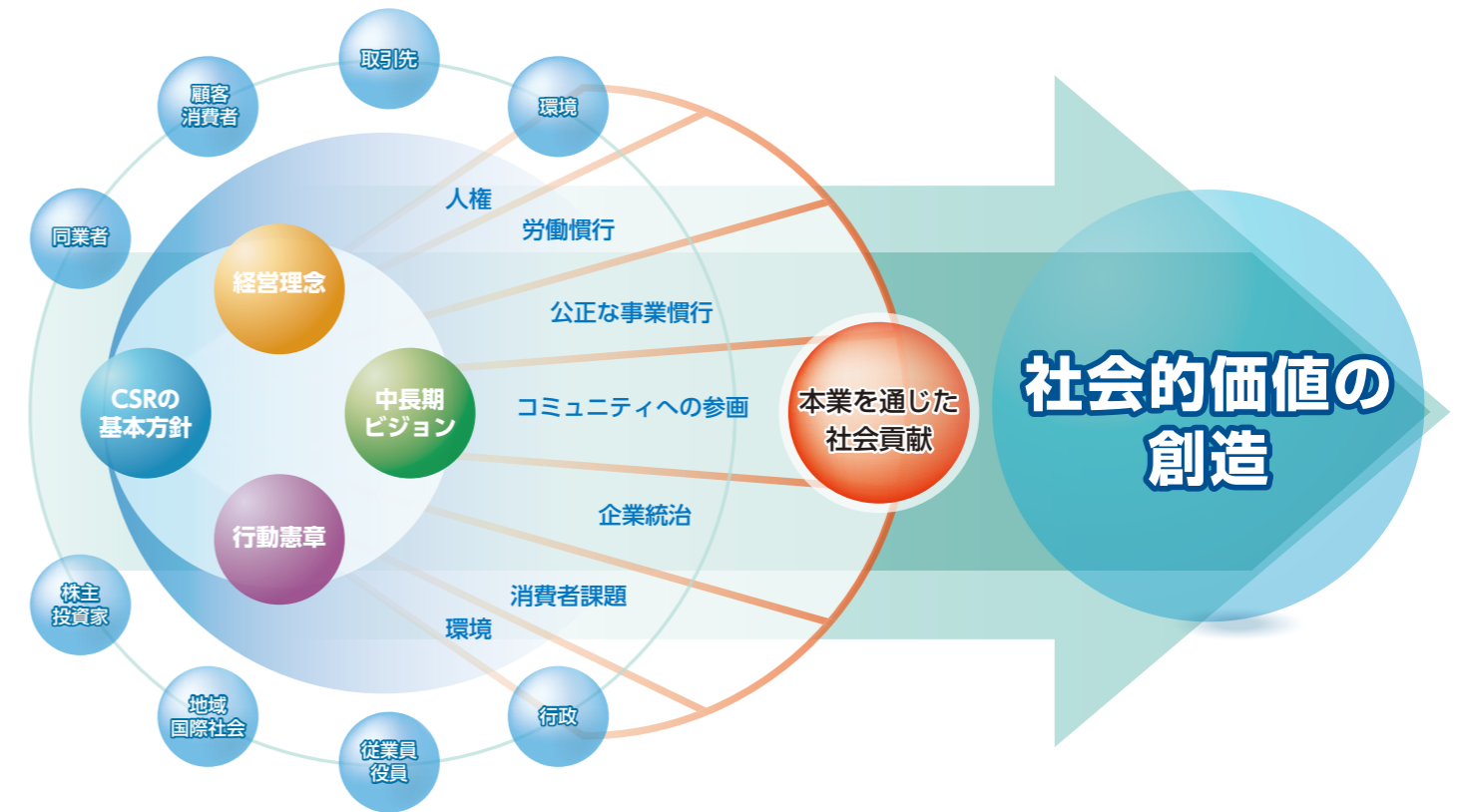
企業活動はまた、川上から川下までのサプライチェーンを通じてステークホルダーに様々な影響をおよぼします。このことを踏まえて、私たちは地球環境に配慮しつつ、ADEKAならではの技術力を人々の“より良い暮らし”に役立てていきます(人と技術の優しい調和=本業を通じた社会貢献)。

そして、様々なステークホルダーの皆様との協働(社会との融和)のもと、プラスの影響を高め、マイナスの影響を低減するような企業活動を続けていくことで、「バリューチェーン<sup>\*</sup>」を通じて生み出される社会的価値の最適化(最大化)を図り、持続可能な社会の形成に貢献していきたいと考えています。

<sup>\*</sup> 社会的価値を生み出すサプライチェーン

## ADEKAグループ行動憲章に記されているCSRの重要課題とバウンダリー

ADEKAグループでは、「ADEKAグループ行動憲章」をもとに、バリューチェーンを通じて生み出される社会的価値の最適化(最大化)を図っています。



「ADEKAグループ行動憲章」	バリューチェーンとステークホルダー(バウンダリー)				
	原料調達(サプライヤー)	自社	物流(協力会社)	顧客	エンドユーザー 地域・社会、地球環境など
1. 法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動	コーポレートガバナンス、コンプライアンス体制の確立、リスクマネジメントなど(p19-20)				
2. 安全で高品質な商品・サービスの提供	新規事業分野の開拓と業容・領域の拡大(p13-14) / トレーサビリティの確保 / 品質マネジメント(p21-22) など				
3. 環境の保全	環境マネジメントの推進(p25-28) など				
4. 社会からの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動	次世代育成、社会福祉活動、地域・社会とのコミュニケーション(p35-38) など				
5. 適切かつ公正な情報開示	製品情報の提供(p21) / IR活動(p35) / 情報セキュリティの強化(p20) など				
6. 働きやすい職場環境	ダイバーシティの推進、グローバル人材の育成、ワーク・ライフ・バランスの推進(p29-32) / 労働安全衛生(p33) など				
7. 反社会的勢力の排除	コーポレートガバナンス(p19) など				
8. 健全で持続的な発展と社会への還元	ステークホルダーの利益に配慮したバリューチェーンの最適化				

ADEKAグループ行動憲章

<http://www.adeka.co.jp/company/action.html>



# 中期経営計画「STEP 3000-II」の 進捗状況

2015年度からスタートした中期経営計画「STEP 3000-II」では、「ADEKA VISION 2025」に基づいた「売上高3,000億円のグッドカンパニー」の実現を目指し、基本戦略と3つの基本方針に基づいた取り組みを推進しています。

2025年の  
ありたい姿

**ADEKA VISION 2025**  
先端技術で明日の価値を創造し  
豊かなくらしに貢献するグローバル企業

## 中期経営計画「STEP 3000-II～グッドカンパニーの実現～」

期間 **2015-2017年度(3ヵ年)**

位置づけ  
●売上高3,000億円のグッドカンパニーを確実に実現させる期間  
●ADEKA VISION 2025の達成に向けた最初の3年間

### 基本戦略

1. コア事業を中心とした規模拡大  
「樹脂添加剤」「食品」
2. 第3のコア事業の育成  
「情報・電子」
3. 新規事業の育成や  
業容／領域の拡大  
特に注力する分野：  
「ライフサイエンス」「環境・エネルギー」

### 3つの基本方針

1. 海外  
グローバル化の拡大と  
ローカライゼーションの加速
2. 技術  
基盤・コア技術の深耕による  
イノベーションの創出
3. 人財  
グローバル人財、戦略立案人財の拡充と育成

## 数値目標に対する進捗状況

2015年4月に公表した中期経営計画「STEP 3000-II」の初年度である2015年度の進捗は右表の通りです。

単位：億円

	2014年度 前中計最終年度 (実績値)	2015年度 中計1年目 (実績値)	2017年度 中計最終年度 (目標値)
売上高	2,058	2,227	3,000
営業利益	140	193	240
営業利益率	6.8%	8.7%	8.0%
海外売上高	843	973	1,500
海外売上高比率	41.0%	43.7%	50.0%

※ 2014年度は、会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載  
※ 金額は億円未満を切り捨てて表示

## コア事業を中心とした 規模拡大

### 樹脂添加剤事業

- 縮合リン酸エステル系難燃剤の生産を中国・台湾に集約し、コスト競争力を強化しました。
- 汎用酸化防止剤の供給体制をさらに強化しました。
- ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) の研究開発体制を強化しました。



ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.

### 食品事業

- 明石工場で、2015年4月に国際的な食品安全システム認証規格「FSSC 22000」を取得し、国内全ての食品製造工場で認証取得が完了しました。
- 中国の艾迪科食品(常熟)有限公司で、現地の嗜好にあった製品の開発を推進するとともに、販売体制を強化しました。
- マレーシアのADEKA FOODS (ASIA)の製造工場が本格稼働し、加工油脂製品の販売を開始しました。また、2015年4月にHACCP認証を取得しました。

## 第3のコア事業の育成

### 情報化学品

- 最先端の液晶ディスプレイ向けに、高い感度・透明性を備えた高感度光重合開始剤「アデカアークルズNCIシリーズ」を開発し、製品ラインナップを拡充しました。
- ブラックマトリックスレジストの生産・販売体制を台湾に集約し、コスト競争力を強化しました。

### 電子材料

- 鹿島工場と韓国のADEKA KOREA CORP.で、需要の拡大が見込める高誘電材料の設備投資を実行しています。
- ADEKA KOREA CORP.で、研究施設や分析機器の充実を図り、技術革新に即応した製品開発を可能とする研究開発体制を構築しました。



ADEKA KOREA CORP.

## 新規事業の育成

### ライフサイエンス

- メディカル材料分野では、次世代医療材料である脱細胞化再生医療材料や経鼻吸引型ワクチン向けアジュバントなどを開発し、事業化への取り組みを推進しました。

### 環境・エネルギー

- 東京大学からグラフェンの製造技術に関する特許の独占ライセンスを取得し、サンプル提供を開始しました。この製造技術により、短時間に高収率・高濃度・高品質なグラフェンを安定的かつ大量に提供することが可能となり、2020年までの商業生産化を目指しています。

### グラフェンとは

フラーレンやカーボンナノチューブに代表されるナノカーボンの一種で、電気をよく通す、軽くて強いなどの特長があり、将来の燃料電池、半導体、タッチパネルなどの材料として期待されています。



## グローバル連結経営管理システムを運用開始

本中計では「グループ経営管理の強化」を重要なテーマの1つに掲げています。

当社グループは、グループ会社の経営状況を分析するためのIT基盤として、新たに「グローバル連結経営管理システム(GMS)」を構築し、2015年4月から運用開始しました。GMSは連結対象となるグループ会社でも、同じレベルで経営情報を管理できるようにするために導入したものです。

グループ全体の経営情報(生産・販売・在庫・収益など)を一元管理し、経営判断に必要な情報を把握することで、経営の意思決定を迅速化することが可能となりました。



# 特集：ADEKAの樹脂添加剤事業とイントメッセント系難燃剤 「ADEKAらしさ」を活かした 「開発・製造・販売」三位一体の バリューチェーン

## ADEKAと樹脂添加剤

プラスチックは、石油、天然ガスといった天然資源を原料とする合成樹脂であり、加工を施すことで様々な用途に用いられます。他の材料よりも安価で、耐久性、耐熱性、耐摩耗性といった“機能的なメリット”を付加することが可能なプラスチックは、先端技術の進展により“鉄よりも硬いプラスチック”の開発などが進んでいます。

プラスチックに“機能的なメリット”を付加するのが、ADEKAのコア事業である樹脂添加剤です。当社はこの分野のパイオニアであり、世界最高レベルの技術を有するグローバル・トップブランドとして幅広い事業活動を展開しています。

### 高度な技術・ノウハウを活かし「樹脂添加剤の処方」を提案

当社は、様々な種類の添加剤を開発しています(右表)。添加剤の機能を十分に発揮させる条件は温度や加工方法によって異なり、また、同時に使用される他の材料との組み合わせによっても異なります。

ADEKAでは長年培ってきた技術・ノウハウで、幅広いラインナップを有し、「テクニカルサービス」という役割を担う開発担当のエンジニアが、お客様と直接コミュニケーションを図り“真のニーズ”を探り出すことで、お客様のニーズにベストマッチした「樹脂添加剤の処方(組み合わせ)」を提案しています。

### 樹脂添加剤の主な種類と機能

安定剤	樹脂の加工性を改善、製品の経時劣化を防止
可塑剤	柔軟性を付与
酸化防止剤	熱や酸による劣化を防止
光安定剤	紫外線などの光エネルギーを無害化 →劣化防止、変色防止
造核剤	剛性、熱変形温度などの機械物性を向上 製造段階でのプラスチック成型サイクルを促進→生産性向上
透明化剤	透明性を改善
重金属不活性剤	金属の触媒作用による劣化を防止
難燃剤	難燃性を付与



### 「ADEKAらしい提案」

お客様ニーズにマッチし、  
世界一の機能と品質を備えた  
製品を提供するために

樹脂添加剤本部 樹脂添加剤営業部長  
船水 智行

ADEKAは、樹脂添加剤の総合メーカーとして培ってきた製品開発力と幅広い製品群、さらにはテクニカルサービスを主体とする“処方提案力”により、縮合リン酸エステル系難燃剤では世界トップシェアを維持し続けています。

ポリオレフィン向け難燃剤は他社でも生産されていますが、燃焼時に有毒ガスが発生することに加え、

大量の添加が必要となることから比重増や柔軟性などの樹脂本来の物性の低下といったデメリットも多く、これらをカバーする当社グループのイントメッセント系難燃剤に対する評価が年々高まっており、シェアを拡大しています。また、ポリオレフィンへの適用例の拡がりとともに、難燃化すべき用途とそれに伴うニーズも増加・多様化しています。

当社では、研究開発・製造・販売の各部門が三位一体となって、お客様のニーズに細やかに応えていく体制を整えています。これと同時に、技術力と人材力というADEKAならではの“資産”をフル活用し、人々の暮らしに安全・安心をもたらす優れた先端素材を提供することで、社会に貢献していきたいと考えています。



### 「ADEKAらしい販売」

世界中のお客様から  
必要とされ続けるために

艾迪科(上海)投資有限公司  
橋 宏三

イントメッセント系難燃剤のお客様はグローバルに拡大しています。こうしたお客様のニーズに応えるべく、ADEKAグループは、イントメッセント系難燃剤の生産・販売機能を中国拠点に移し、グローバルな最適生産・供給体制を構築しています。

海外での生産は苦勞の連続ですが、日本の工場技術員による厳格な品質管理とローカル社員へのオペ

レーション教育などを徹底させ、日本と同じ高い品質レベルを維持しています。

艾迪科(上海)投資有限公司がグローバル販売のハブ機能となり、日本、アメリカ、ヨーロッパ、韓国などにあるADEKAグループの各拠点と連携し、グローバルに、そして迅速に対応できる顧客サービス体制となっています。

ADEKAグループの強みは、技術優位な製品群はもちろんのこと、世界のお客様に技術的なソリューションを提供できることです。国内外の販売拠点および研究・生産部門と技術的なディスカッションを繰り返し、最終製品の価値を向上させ、世界のお客様の様々なニーズにお応えし続けています。

### 樹脂添加剤事業のグローバルネットワーク

イントメッセント系難燃剤の  
研究開発・生産・販売拠点

販売: 艾迪科(上海)投資有限公司  
生産: 艾迪科精細化工(上海)有限公司  
研究開発: 樹脂添加剤開発研究所







「ADEKAらしい量産化」

生産・販売の  
「完全現地化」

技術部 技術グループリーダー  
藤井 孝文

良質なリンの世界的な生産地であることと、有望な潜在的市場であることなどの理由から、中国でイントメッセント系難燃剤の生産を行うこととなりました。

本社・富士工場において試作品の中実験から始まった開発プロジェクトは、着実に成功をおさめて、2011年には、ADEKA国内工場のエンジニア（製造技術）を派遣して同年竣工した艾迪科精細化工（上海）有限公司の工場に移管しました。

このプロジェクトの成功にはメンテナンス面を含めた「完全現地化」が不可欠であるとの考えから、新工場には中国製の製造設備を導入することにしました。量産化に向けて、厳選した原料および製造設備のサプライヤー

と、現地採用の従業員とともに様々な「苦難」を乗り越えて生産体制を整え、2012年にお客様の品質認証を得て初出荷できました。

イントメッセント系難燃剤は、全て中国から全世界に供給されることから、艾迪科（上海）投資有限公司に販売機能を移し、BCM体制を整え、各地との密接な連携のもとでの製品の安定供給を実現しています。

カンファレンスへの参加

ADEKAという企業とイントメッセント系難燃剤という製品の認知度を上げる目的で、プラスチック、難燃剤、自動車、建材関連のカンファレンスや展示会、講演会などに積極的に参加しています。



お客様との技術交流会の開催  
(ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC)



「ADEKAらしい研究開発」

ハロゲンフリーの  
難燃剤に注力

樹脂添加剤開発研究所 改質剤開発室長  
大 直子

「難燃剤」は、プラスチックに難燃性（燃えにくい性質）を付与する添加剤です。臭素系化合物に代表されるハロゲン系難燃剤を添加したプラスチックが難燃プラスチックの代表格ですが、一部のハロゲン系難燃剤は、火を消す際に一酸化炭素と黒煙を大量に生成させます。火災事故での犠牲者の多くが、建材・家財などから発生する煙による窒息や一酸化炭素中毒が原因で亡くなっています。そこでADEKAは、リンをベースとした「煙や一酸化炭素中毒の抑制にも優れたハロゲンフリーの難燃剤」をコンセプトに開発を行ってきました。

2000年に、主にテレビやパソコンの家電筐体や建材関連のエンジニアリングプラスチックなどに使用さ

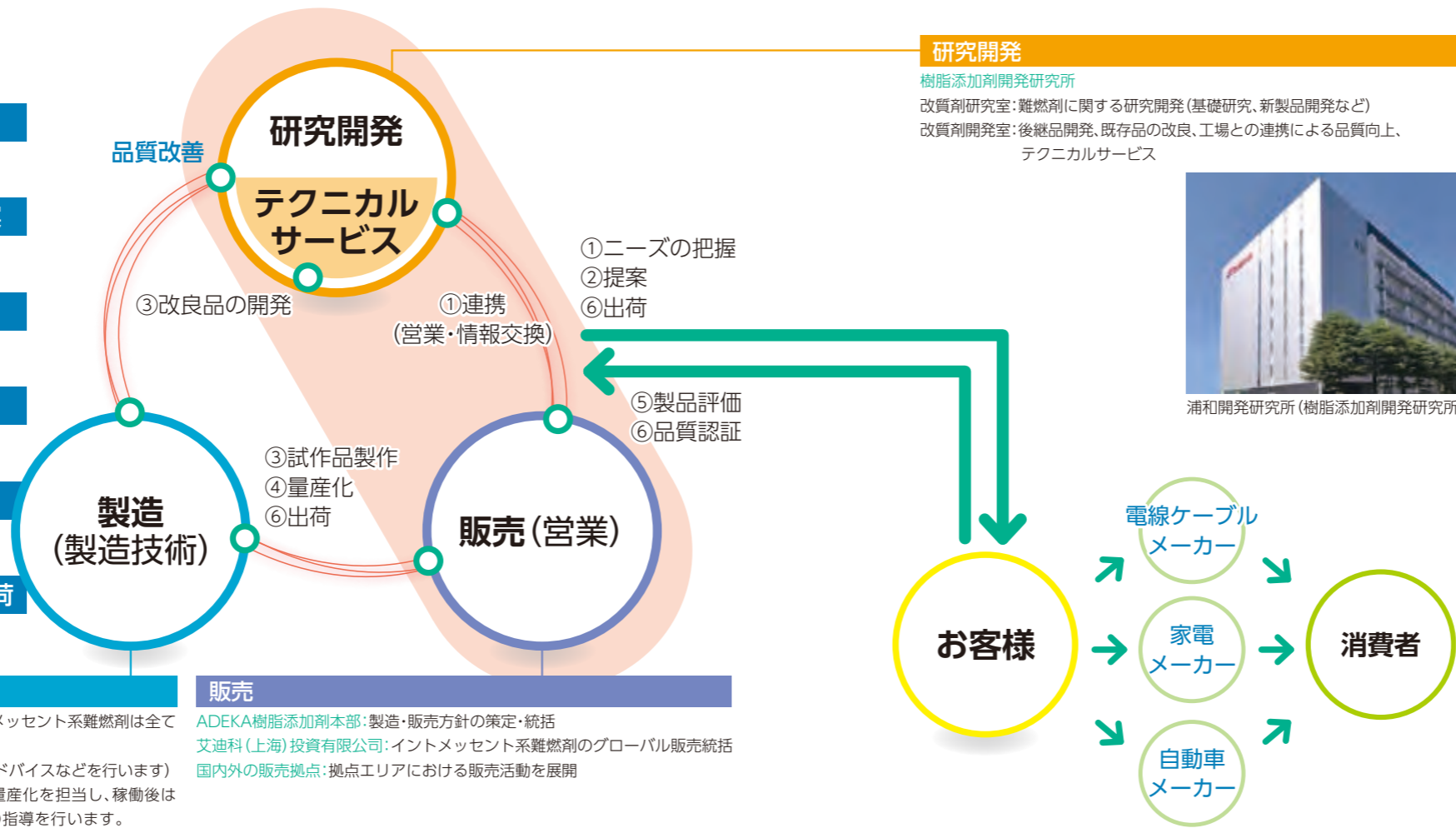
れる「縮合リン酸エステル系難燃剤（アデカスタブFP-600）」の販売を開始しました。さらに2007年には、ポリオレフィン向けの「イントメッセント系難燃剤（アデカスタブFP-2000シリーズ）」の販売を開始しました。

大勢の人が集まる公共の建物だけでなく、気密性が高い現代的な住環境においては、人が避難する妨げとならないよう、より安全性の高い難燃剤を求める声が高まっています。この声に応えるべく開発したFP-2000シリーズは、燃焼の際、パンを焼いた時に膨らむように、イントメッセント（発泡膨張層：intumescent）という泡状の炭化層を材料の表面に形成します。炭化層が内部への熱の伝播を遮断することで、燃えやすいポリオレフィンの難燃化を可能とただけでなく、煙の発生も抑制します。

用途としては電線やケーブルの被覆材のほか、家電製品内部の発熱しやすい部分などに使用されています。ハイブリッド車や電気自動車の普及とともに、高温となる充電池周辺部品など適用範囲の拡大も期待されています。

グローバル視点で行う  
三位一体のバリューチェーン

- ①お客様の“真のニーズ”を把握
- ②お客様ニーズに合った処方を提案
- ③既存品の改良
- ④完成した試作品の量産化
- ⑤お客様の工場での生産試験・評価
- ⑥お客様による品質認証を経て、出荷



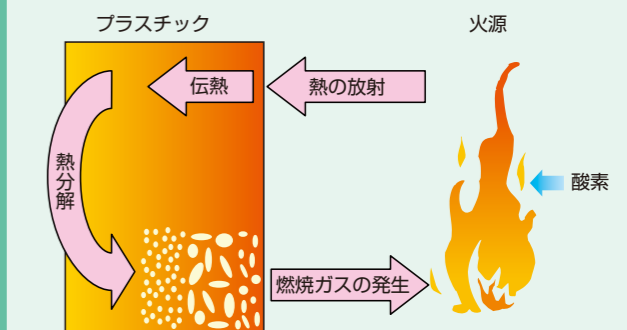
**製造**  
艾迪科精細化工（上海）有限公司：主工場（ADEKAのイントメッセント系難燃剤は全てこの工場生産し、全拠点に供給しています）  
三重工場：樹脂添加剤のマザー工場（生産技術面の指導・アドバイスなどを行います）  
ADEKA技術部：工場の立ち上げ時や新製品・改良品の量産化を担当し、稼働後は本社、三重工場、艾迪科精細化工（上海）にて品質管理面の指導を行います。

**販売**  
ADEKA樹脂添加剤本部：製造・販売方針の策定・統括  
艾迪科（上海）投資有限公司：イントメッセント系難燃剤のグローバル販売統括  
国内外の販売拠点：拠点エリアにおける販売活動を展開

燃焼サイクルの模式図

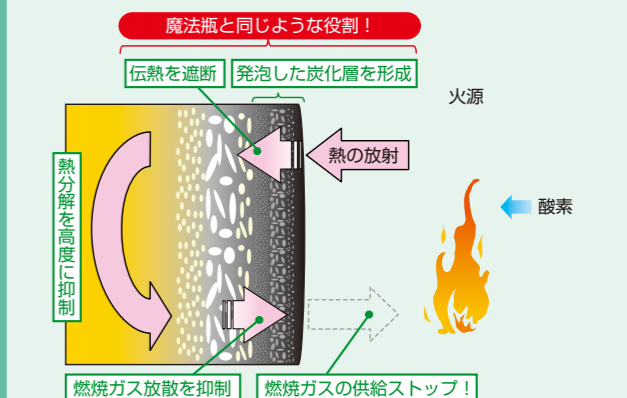
難燃剤を添加していないプラスチック

熱の放射でプラスチックが分解して燃料となるガスが発生し、火源に供給されるといったサイクルで燃焼が継続する。



イントメッセント系難燃剤を添加したプラスチック

一旦火はつくが、すぐに炭化・発泡し、断熱効果と燃焼ガスの遮断効果を併せ持つ均質な発泡膨張層（イントメッセント）を形成するため、燃焼が継続できなくなって鎮火する。





# CSR Management CSRマネジメント

ADEKAグループは、「本業を通じた社会貢献」と「社会との共存共栄」を基本とした経営理念のもとで企業使命を実現し、社会の期待・要請に応えることが、当社グループのブランド価値・企業価値を持続的に高めることにつながると考えています。この目的を達成するため、当社グループは、コーポレートガバナンスのさらなる強化とコンプライアンス経営の徹底に努めています。

## コーポレートガバナンス

### コーポレートガバナンスの基本的な考え方

ADEKAグループは企業使命・経営理念を実現し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るために、コーポレートガバナンスの強化を図ることが経営上の最重要課題であると認識しています。

当社では経営体制の改革・強化に向けて、執行役員制度の採用、経営会議の新設、取締役員数の最適化と任期短縮、社外取締役選任などの経営機構改革を相次いで実施し、経営効率の一層の向上を図りました。

2015年6月には、取締役会の監督機能強化と経営の透明性確保の観点から、社外取締役を1名増員し、現在2名の独立社外取締役体制をとっています。

### コーポレートガバナンス・コードへの対応

2015年6月1日に適用開始されたコーポレートガバナンス・コードの趣旨・精神を踏まえ、当社グループ全体のコーポレートガバナンスのレベル向上と、取締役会、監査役会などの各機関や役員・従業員がそれぞれの役割を果たし、有機的に連携する企業統治システムの構築を目的として、「ADEKAグループ コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定し、公表しています。

本ガイドラインに定める事項の実践を通じた「透明・公正かつ迅速・果敢な経営」により、持続的な成長を目指していきます。

ADEKAグループ コーポレートガバナンス・ガイドライン  
<http://www.adeka.co.jp/ir/library/pdf/cgg.pdf>

## コンプライアンス

### コンプライアンスの基本的な考え方

ADEKAグループの経営理念「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」「世界とともに生きる」は、社会環境や経営環境の変化に鋭敏に対応し、ステークホルダーの利益に充分配慮した経営を行うことによって、経営の健全化、さらには国際社会との調和を目指していくという想いを込めています。このような経営理念や企業使命の実現こそが、コンプライアンスの本質であり、原点であると考えています。

ADEKA独自の技術で生み出す良質な商品・サービスによって、メーカーに課せられた課題の解決に役立つ新しい価値を提供すること、さらにはステークホルダーとの積極的な対話や社会貢献活動を通じて社会の期待や要請に応じていくことが、ADEKAグループの「コンプライアンス経営」です。

### グループコンプライアンスの強化

ADEKAグループでは、グループコンプライアンスの強化に取り組んでいます。

2015年度は、域外適用が活発化している競争法や贈収賄規制への対応として、競争法・贈収賄規制に関する動画教材（日本語、英語、中国語）をグループ各社と各部門に配布し、同教材を用いた研修の実施を促進しました。9月には中国のグループ会社を訪問し、この教材を用いて研修を実施しました。

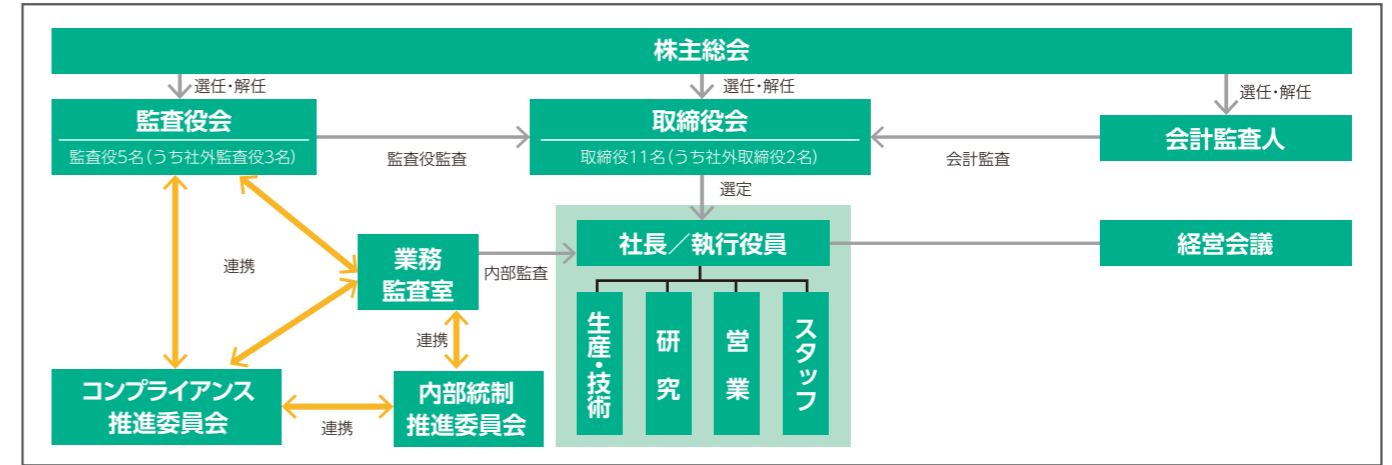
また、グループ経営理念・行動憲章のポスター・カード・小冊子の改訂版を多言語化<sup>\*</sup>し、海外子会社に配布することで周知浸透を図りました。

<sup>\*</sup> 日本語、英語、フランス語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、タイ語、マレー語



グループ経営理念・行動憲章ポスター（日・英・中）

### 経営管理体制図



### コンプライアンス機能のモニタリング

当社は、2年に1回、全役員・従業員を対象としたコンプライアンス意識調査を実施しています。

2015年に行った調査では、当社の評点が階層別・職群別のいずれにおいても、前回調査時の数値を上回りました。本アンケート結果をコンプライアンス活動の改善に役立てるとともに、今後も継続して、教育・啓蒙活動を推進していきます。

### コンプライアンス意識調査概要

実施期間：2015年5月～6月  
対象者：当社の役員・従業員（嘱託・契約社員を含む）  
計1,777名  
回答率：95.0%  
当社評点：5点満点中4.1点（2013年調査から0.1ポイント改善）



プリンシプル・コンサルティング(株)  
代表取締役 秋山進様 コメント

- 社員のコンプライアンス意識は高いレベルであり、部門間・階層間のばらつきも少なく、项目的に弱いところが見られない。安定した組織運営がなされている。
- 企業理念・行動基準の浸透のスコアが高く、理念が深く浸透している。
- 他社平均と同等ではあるが、他の項目と比べ、相対的に重要情報の管理が弱い。
- 内部通報窓口の信頼性をさらに高めたい。

### コンプライアンス相談・通報制度の運用状況

ADEKAは、コンプライアンス相談・通報制度を運用しています。

小冊子「ADEKAほっとライン コンプライアンス相談・通報制度」を通じたPRや、通報者の匿名性を高める外部受付サービスの導入など、相談・通報制度への信頼性向上に取り組んでいます。

年度	2012	2013	2014	2015
件数	1	7	3	4

### 情報管理・情報セキュリティ強化に向けた取り組み

不正競争防止法や個人情報保護法の改正、マイナンバー制度の運用開始を受けて、当社では、2015年10月に社内情報管理規程の改定を行うとともに、「企業秘密保護マニュアル」を制定しました。

また、近年様々な企業や団体でサイバー攻撃による情報流出事件・事故が相次いでいることから、2016年4月にコンプライアンス推進委員会 情報管理部会主催で、(株) NTTデータの山田達司様を講師にお招きして情報セキュリティ講演会を開催し、当社および関係会社の社員計542名が受講しました。





# 製品安全に向けた取り組み

## 責任者より

製品安全では、「化学品管理の推進」「食品の安心・安全の推進」「クレーム撲滅活動の強化」を積極的に実施し、サプライチェーン管理の基盤を構築することで、お客様に信頼される安全で高品質な製品をグローバルに提供しています。

2015年度は、化学品では2015年に施行された海外の法規対応や、国内外SDS<sup>\*1</sup>作成システムを検証しました。食品はトレーサビリティシステム強化のため、新たな原料情報収集システムを導入しました。また、品質安全の取り組みが確実になされているかをチェックするために「品質・PL監査<sup>\*2</sup>」を実施しており、2015年度は計35部署で実施しました。



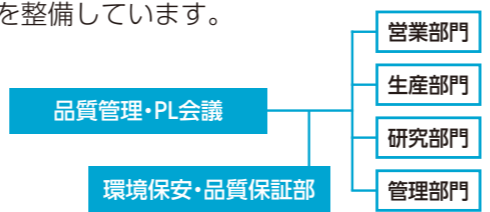
執行役員  
環境・安全対策本部長  
環境保安・品質保証部長  
宍戸 康司

## 2015年度品質安全方針

- 再発防止の徹底、リスク管理によるクレーム・工程内不良撲滅活動の推進
- 原料・製品規格書の整備、化学物質管理の強化
- フードディフェンスの視点を含めた食品安全強化、妨害行為への対策強化

## 品質管理体制

安定した品質レベルを維持・管理するため、品質管理体制を整備しています。



## 2015年度目標と実績

項目	目標	実績
PL対応の徹底	海外法規制に対応した SDS 自動作成システムでの国別 SDS 検証・作成	SDS自動作成システムを用いた国別SDSの検証を実施 2015年度GHS <sup>*3</sup> 施行国(EU、米国、シンガポール、ベトナムなど)の対応完了
	食品トレーサビリティシステム	新たな原料情報収集システムを導入し、情報管理を強化
化学物質の総合管理	国内外法規制への的確な対応継続	日本化審法 既存物質数量報告および追加優先評価物質への対応完了 中国 危険化学品目録正式公表(2015年5月)に合わせた追加登録完了
	韓国 REACH <sup>*4</sup> 、台湾化審法への新規申請の運用安定化	韓国 2015年7月公表の既存登録対象物質への対応(締切2018年6月) 台湾 実績数量報告の完了
食品の安心・安全	お客様への情報提供の継続	製品規格書による製品情報の提供および品質管理に関わる回答書の提供
	国内関連法への対応と情報収集の継続 食品表示基準への確実な対応	食品表示基準や同Q&A、その他関連の通知をもとに、表示変更内容をまとめ、関連部署と情報共有化

\*1 SDS:安全データシート=化学物質の名称、性質、危険有害性、取り扱い上の注意などを記載したシート

\*2 品質・PL監査:各部門(研究、生産、営業、スタッフ)において、品質安全に関する対応が確実に実施されているかをチェックするADEKA独自の取り組み

\*3 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (化学品の分類および表示に関する世界調和システム)

\*4 韓国版REACH:韓国で2015年1月1日に施行された「化学物質登録および評価に関する法律」

## 2015年度の取り組み

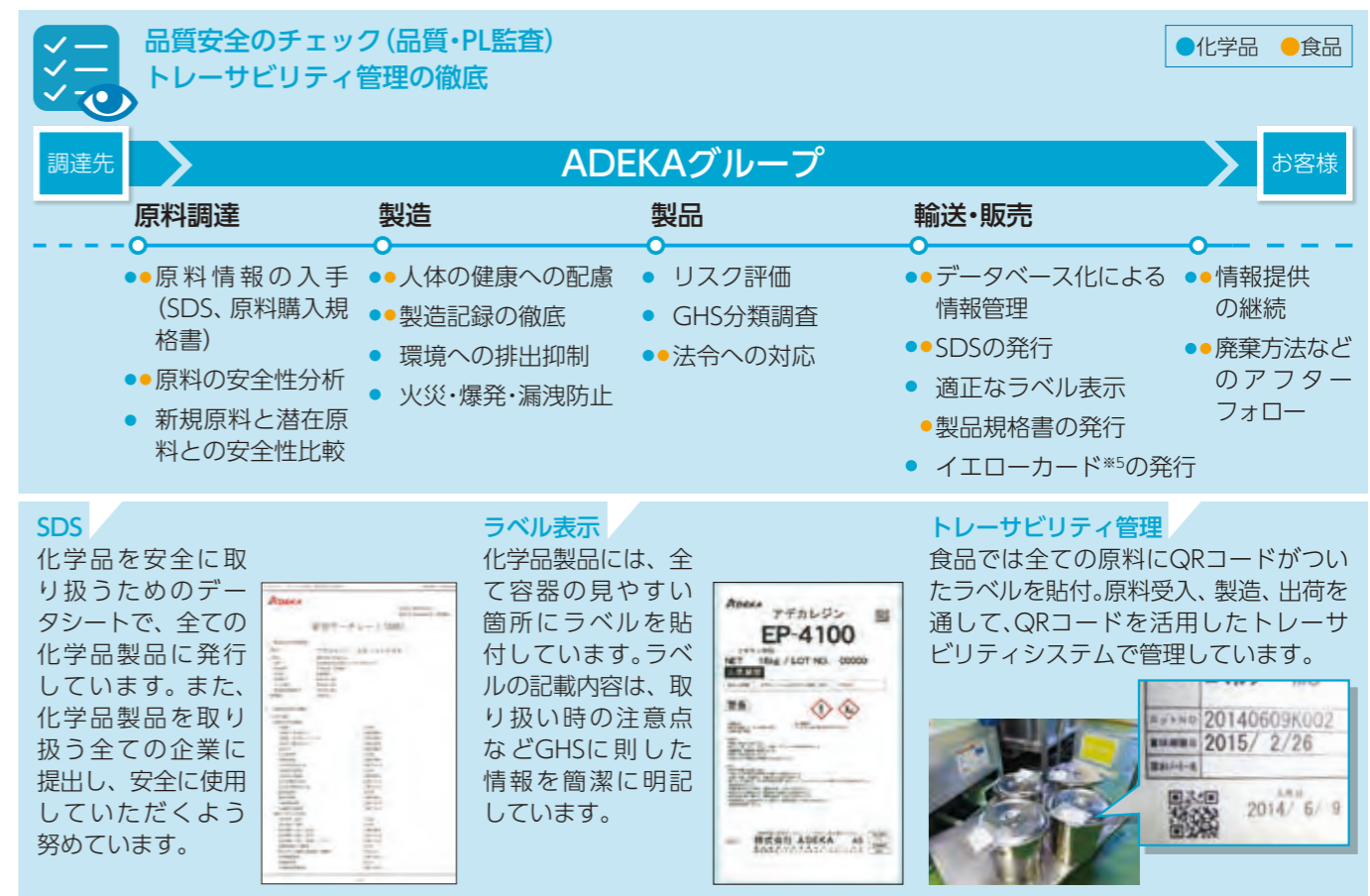
### 品質安全～PDCAサイクルの確認

製品品質に関する情報は、基本的に製造工場において集約し、ISO品質マネジメントシステムのPDCAサイクルに沿って管理されています。重要な製品品質に関する情報は、全社統括部門である環境保安・品質保証部において、対策と効果をチェックしており、年2回のクレーム対策会議で他部門と対策などの情報を共有化することで、類似トラブルを二度と起こさぬよう徹底しています。

### サプライチェーン管理の徹底

ADEKAグループでは、サプライチェーンに関わる全ての原料に対し、適正な管理を徹底しています。化学品では国内外での化学物質管理に関する法規制への対応を迅速に行い、お客様に安心してご使用いただけるよう取り組んでいます。

食品では、食品および食品添加物製造工場を対象に、衛生管理状態や品質管理状況、法令遵守状況、製品トレーサビリティチェック、フードディフェンスの管理レベル向上を図っています。



## 2016年度の目標

項目	目標
PL対応の徹底	海外法規制に対応したSDS自動作成システムでのSDS発行と運用
	製品情報管理強化に対応したシステムの導入
化学物質の総合管理	国内外法規制の的確な対応継続
	実績数量報告の確実な実行 韓国REACH(2016年6月)、米国TSCA <sup>*6</sup> (2016年9月)
食品の安心・安全	製品規格書などによるお客様への確実な製品情報などの提供継続
	食品表示基準を含む関連法に関する情報収集と確実な対応継続

\*5 イエローカード:製品運搬中に事故が発生した際に、誰でも迅速に初期対応ができるよう、製品情報を記載したカード

\*6 TSCA: Toxic Substances Control Act (有害物質規制法)



# 特集 安全に工場を運営していくために 海外グループ会社 環境・安全衛生活動



## 「安全が一番」—韓国での世論が高まる

韓国では近年、企業による事故や災害が多発しており、当社のお客様の工場などでも重大な事故が発生しています。国内でも「安全が一番」という世論が高まっており、政府は環境安全に関連する法令の強化を実施しました。

ADEKA KOREA CORP.では、安全管理の重要性を再認識することで安定的な事業活動を継続していくため、さらには従業員とその家族の幸福を願い、EHS活動<sup>\*1</sup>を強化することとしました。

\*1 EHS活動: EHSとは、Environment (環境)、Health (保健)、Safety (安全)の頭文字で環境・安全衛生分野における活動。

## 安全を追求していく文化を社内で醸成

EHS活動をはじめまでは当社で発生したヒヤリ・ハット<sup>\*2</sup>事例のなかでも、不注意によるものが約3割を占めており、潜在化している危険因子がいつ事故につながってもおかしくない状況でした。そこでまず、安全の追求を全社員が意識的に行うことができる企業

文化の醸成を目指しました。社員はもともと安全について高い意識を持っていましたが、さらに一人ひとりの「気づき」が芽生え、一瞬の不注意による事故リスクをなくす改善に取り組めるようになりました。

\*2 ヒヤリ・ハット: 重大な事故・災害に至らないまでも、事故に直結した可能性のある事例。

## ステークホルダーの皆様から評価をいただきました



韓国環境部長官賞を受賞(2015年6月)



サムスン電子環境安全革新大会 革新賞を受賞(2015年10月)



## 主なEHS基本活動の例

### 安全文化改善活動

安全を追求するという企業文化を育み、社員の安全意識向上を図る



就業前や会議前に安全スローガンを斉唱

### 不安全要素改善活動

設備・装置などで不安全な箇所を改善し事故の可能性をなくす



危険物倉庫前に静電気除去シートを設置し、引火事故リスクをなくす

### 視認性改善活動

工場のいたるところに安全標識を掲示し、全社員で安全意識を共有する



停電発生時、誰でもすぐに復旧できるように受電パネルに配線経路と手順を表示



EHS幹部会議を毎週実施し、各部署による改善を社内共有



階段に滑り止めを貼付して転倒を防止、さらに中間柵を設置し二次災害を防ぐ



フォークリフトに反射テープを貼付、速度を制限して夜間作業の視認性を向上

この活動を通じて、社員の環境・健康・労働安全に対する意識が飛躍的に向上し、当社に訪問されるお客様からもお褒めの言葉をいただくようになりました。しかし、「安全がこれで充分」というラインはありません。

製品の供給責任をしっかりと果たし、お客様のみならず、ステークホルダーの皆様が豊かで幸せに暮らすことができる社会をつくる一助となれるよう、これからも安全を追求し続けます。



# 環境保全に向けた取り組み

## 責任者より

ADEKAグループでは、事業活動が環境におよぼす影響を把握し、大気、水質、土壌などの汚染防止と環境負荷の低減に取り組んでいます。

省エネ活動としては、2015年度から固定エネルギーに注目した低減活動への取り組みをはじめており、また、フロン排出抑制法の対応により温室効果ガス排出量の低減に取り組んでいます。

廃棄物では、PCB廃棄物処理の計画的な実行を進めるほか、食品廃棄物の不正な転売事件を受け、当社が排出する全ての産業廃棄物に対して適正な取り扱いの管理強化を進めています。社会が持続的に発展するために、当社はこれからも地球環境に優しい企業を目指していきます。

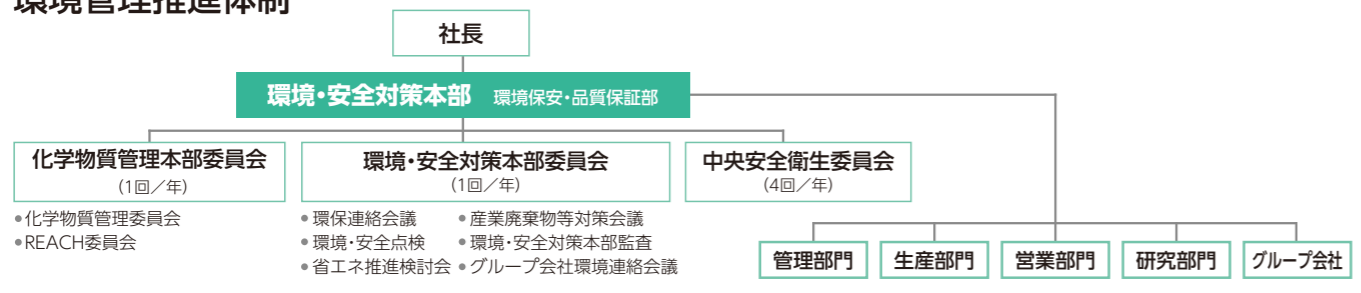


執行役員  
環境・安全対策本部長  
環境保安・品質保証部長  
宍戸 康司

## 環境基本方針

1. 環境汚染の防止のため、省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制および再資源化に努める。
2. 環境に関連する国内外の法令および規制を遵守するとともに、自主管理を強化し、さらなる環境保全に努める。
3. 事業活動は生物多様性が生み出す恩恵に依存していることを自覚し、生物多様性の保全を図る。
4. 環境負荷の低い原材料を積極的に調達し、循環型社会の実現に貢献する。
5. 環境保全に関する活動の成果を社会に公表する。
6. ステークホルダーとコミュニケーションを図り、社会や地域における環境保全活動への支援を行う。

## 環境管理推進体制



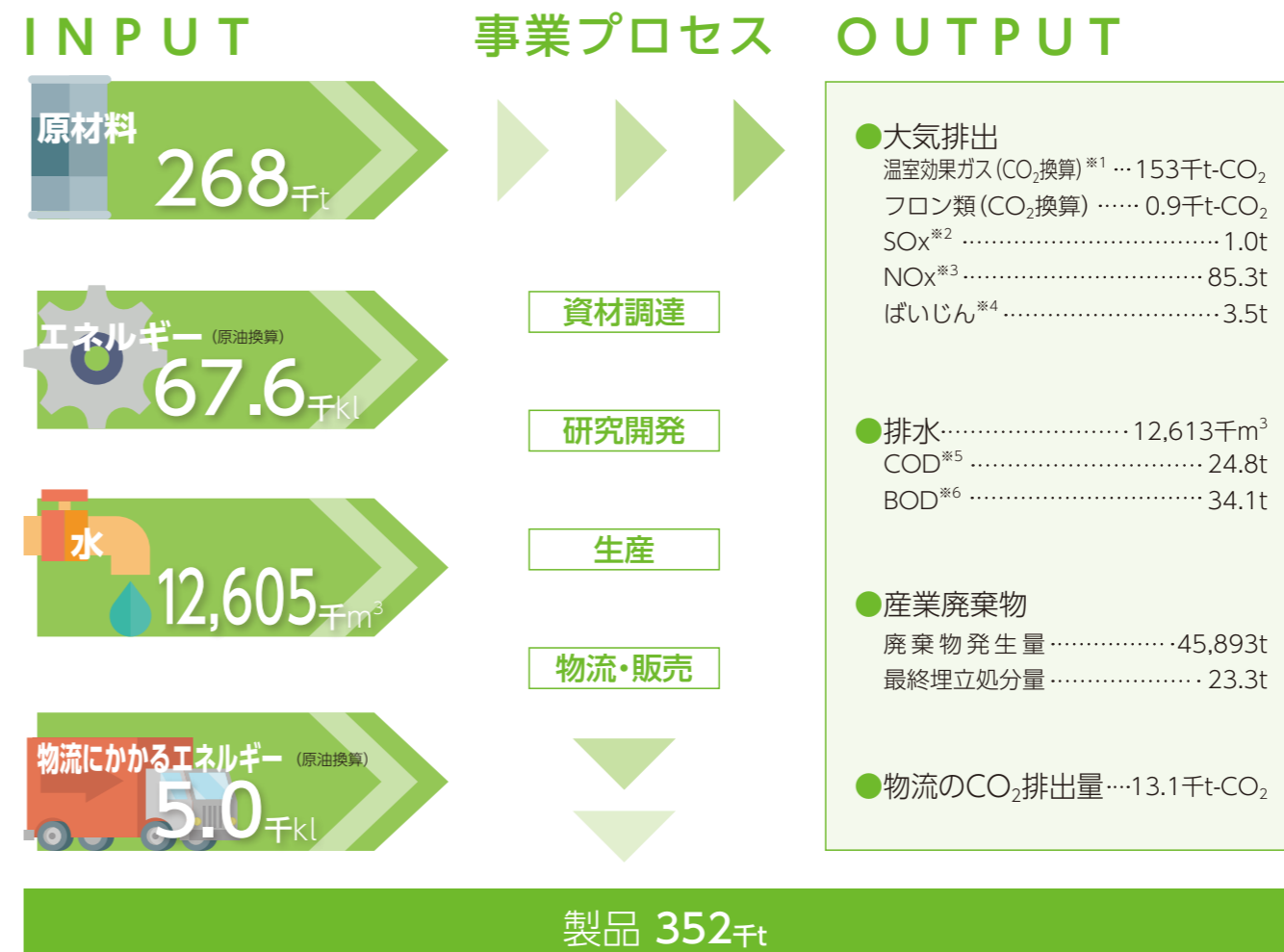
## 2015年度目標と実績

ウェブサイトにおいて、本報告書では掲載できなかった詳細なデータを公開しています(2016年9月から掲載)。  
<http://www.adeka.co.jp/csr/index.html>

項目	対象範囲	目標	実績	自己評価
省エネルギーの推進	生産部門	エネルギー原単位を前年度対比 1% 以上削減	エネルギー原単位 0.1846kl/t (前年度対比 0.6% 削減)	△
		CO <sub>2</sub> 排出量を前年度対比 1% 以上削減	CO <sub>2</sub> 排出量 141,290t (前年度対比 0.8% 削減)	△
産業廃棄物の削減	ADEKA 全事業所	産業廃棄物発生量を前年度対比 1% 以上削減	産業廃棄物発生量 40,508t (前年度対比 2.6% 削減)	◎
		2020 年度までに外部委託量の再資源化率 100% を達成	再資源化率 39.8% (外部委託量 13,026t のうち再資源化量 5,180t)	△
		完全ゼロエミッションを継続 2020 年度までに最終埋立処分量ゼロを達成	完全ゼロエミッション <sup>※7</sup> の継続達成 最終埋立処分量 18.9t (産業廃棄物発生量の 0.047%)	○
グリーン購入の推進		特定の文具類についてグリーン購入率 80% 以上を達成	78.2% (購入点数 8,141 品目中 6,370 品目)	△

## 事業活動のマテリアルフロー

集計対象: ADEKA および国内関係会社 10 社



※1 エネルギー起源、非エネルギー起源、プロセス起源などトータル排出量  
 ※2 硫黄を含む燃料の使用時に発生する硫酸化物  
 ※3 工場のボイラー、焼却炉での燃焼時に発生する窒素酸化物  
 ※4 燃料などの燃焼時に発生する微粒子状物質  
 ※5 有機物を酸化するときに消費される酸素量  
 ※6 河川水や工場排水中の汚染物質が微生物によって無機化・ガス化されるときに必要とされる酸素量

評価 ◎:計画を上回る ○:計画を達成 △:計画を下回る

※7 当社は最終埋立処分量が産業廃棄物発生量の0.1%未満になることを完全ゼロエミッションと定義しています。



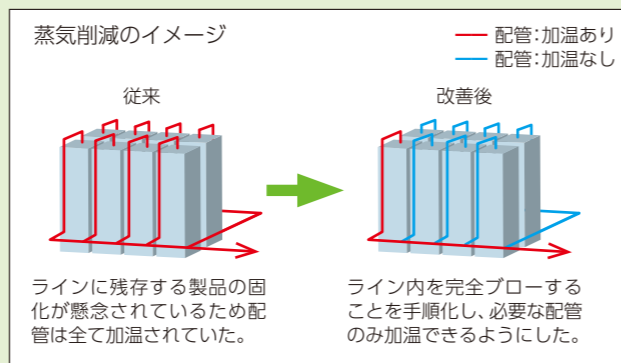
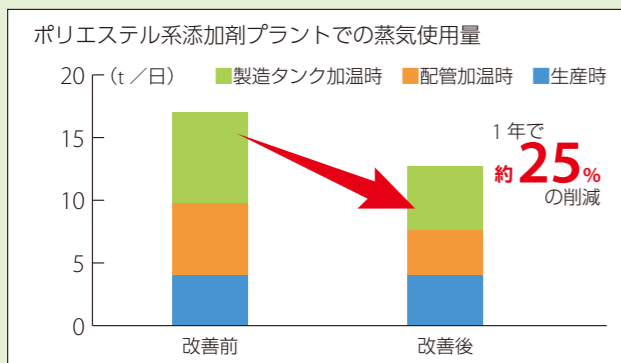
## 2015年度の主な取り組み

### 省エネルギー活動

ADEKAグループでは、省エネルギー活動の取り組みとして、ユーティリティ設備\*の運用管理を強化し、設備を省エネルギー化するなど、細かな活動を積み重ねてきました。今後は、製造プロセスの改善および蒸気配管やタンクの保温などで使用する固定エネルギーの削減に、軸足を移していく必要があると考えています。

2015年度、千葉工場のポリエステル系添加剤プラントでは、蒸気使用量の定量的な見直しを行いました。2016年度は全工場に蒸気流量計の設置を進め、固定的に消費される蒸気の特定期間・削減に取り組んでいきます。

\*ユーティリティ設備：電力や工業用水など、プラントの運転に必要な動力源を供給する設備。



### 「地球にやさしく製造する」を工場一丸で

千葉工場 製造部 製造二課 係長 鈴木 好洋

当工場では、お客様や社会、地球環境、自社発展に貢献すべく、「4つの安全」活動やコストダウン活動を工場一丸で取り組んでおり、今回の事例も環境改善活動の一環です。

従来、製品が高粘度で、流動性を持たせるために、多量の蒸気でタンクや配管中の製品を加温していましたが、地球にやさしく製造することを目的に改善に取り組みました。現場全体でタンクや配管の無

駄な加温の排除や、反応時の排熱ドレンを再利用するなどの改善で、蒸気使用量の約25%を削減することができました。特に、製品タンクの加温は常時行っていましたが、通常は加温を停止し、出荷する直前に既定の製品温度にするのには苦勞しました。

今後も、常に地球環境を意識し、省エネルギー活動を推進していきます。

### 食品産業廃棄物処理の状況確認

2016年初めには廃棄物処理業者による食品廃棄物不正転売のニュースが流れ、世間では食品の安心・安全に高い関心が寄せられています。ADEKAグループでは、当社および国内グループ会社における食品産業廃棄物の処理状況を改めて確認しました。

その結果、契約書の一部不備や排出事業者責任として

求められる廃棄物処理場への現地確認が充分でない事業所があることが発覚し、早急に是正処置を行いました。

環境省では、農林水産省と共同で食品廃棄物の転売防止対策の強化を検討しています。当社グループも今後政府から公表されるガイドラインに従い、食品をはじめ、全ての廃棄物の管理強化を推進していきます。

## 生物多様性の推進



ADEKAグループでは、「ADEKAグループ生物多様性方針」のもと、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取り組みを推進しています。富士工場では、2014年度から敷地内のビオトープ整備を行っており、年1回、自然と触れ合いながらビオトープ内の生態系を調べる自然観察会を開催しています。

2016年4月に開催した第2回自然観察会には従業員とその家族計43名が参加しました。



## 富士工場の自然

富士市環境アドバイザー 山田 高様

富士工場の敷地内に、樹木44種・草本52種・シダ類9種・コケ類7種・その他13種の計125種の生き物が生息しています。これら工場内の身近な自然と関わることが大切であると考え、2014年度からビオトープ化に向けた取り組みのアドバイスをさせていただいています。

自然観察会では、大勢の親子の皆さんが、豊かな自然を感じながら自然遊びなどに夢中になる姿が見られました。この体験を通して、様々な生き物を大切に、守り育てていこうとする皆さんの意欲につながっていきけるよう継続してもらいたいと考えます。

ビオトープは、常緑の林のきめ細やかな伐採や土壌整備をする必要があります。また、池を有効に活用するために水際の整備や水深を浅くするなどの工夫が大切になってきます。今後の努力により現状以上に生物多様性が高まっていくことを期待します。

### 生産時の環境配慮 集計対象:ADEKA(単体)

年度	生産部門	非生産部門	合計
2011	144.5	3.9	148.3
2012	150.6	4.7	155.3
2013	145.2	5.4	150.6
2014	142.5	5.6	148.1
2015	<b>141.3</b>	<b>5.5</b>	<b>146.8</b>

年度	生産部門	非生産部門*	合計
2011	11,116	61	11,177
2012	11,425	57	11,482
2013	11,625	55	11,680
2014	11,935	52	11,988
2015	<b>12,095</b>	<b>54</b>	<b>12,149</b>

\* 非生産部門における水使用量について、集計範囲を見直したため、昨年レポートと数値が異なります。

年度	生産部門	非生産部門	合計
2011	60.3	2.5	62.9
2012	61.5	2.6	64.0
2013	62.2	2.6	64.9
2014	62.0	2.7	64.8
2015	<b>62.3</b>	<b>2.7</b>	<b>65.0</b>

年度	生産部門	非生産部門	合計
2011	35.0	0.9	35.9
2012	37.9	0.7	38.6
2013	38.6	0.5	39.1
2014	41.0	0.6	41.6
2015	<b>40.0</b>	<b>0.5</b>	<b>40.5</b>

## 2016年度の目標

項目	対象範囲	目標
省エネルギーの推進	生産部門	エネルギー原単位を前年度対比1%以上削減
		再資源化・リサイクルによる完全ゼロエミッションの継続推進
産業廃棄物の削減	生産部門	産業廃棄物の適正な処理の推進 (契約書の点検、委託業者視察、食品廃棄物の転売防止の対応など)
グリーン購入の推進	生産部門	食品リサイクル率を前年度比1ポイント以上向上
		特定の文具類についてグリーン購入率80%以上を達成



Creating a Pleasant Working Environment

# 働きがいのある 職場環境



執行役員 人事部長  
安田 晋

## 責任者より

ADEKAグループは、従業員一人ひとりの能力の開発・発揮に主眼を置き、能力の発展段階と発揮した成果に応じた公正な処遇と、働きやすい企業風土の醸成に努めています。

2015年度は、従業員の豊かさの実現に向けて、育児休業期間の一部有給化や子どものための看護休暇の拡充などを行い、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティの推進に注力しました。

引き続き、多様性と個性の尊重をキーワードに次世代を担う人財育成を目指し、従業員が成長し続けられるような安全で働きがいのある職場づくりを推進してまいります。

## 人事理念

- ▶ 従業員の人間性と個性を尊重します。
- ▶ 社会に貢献する人財を育成します。
- ▶ 従業員の自己実現を支援します。
- ▶ アグレッシブな企業人を育成します。

## 人事関連データ 対象：①連結、②～⑦単体

項目	年度					
	2013		2014		2015	
①連結社員数(名)	3,034		3,099		3,241	
②単体社員数(名)	1,530		1,545		1,561	
③社員平均年齢(歳)	38.4	男性:38.8	38.5	男性:38.8	38.9	男性:39.1
		女性:36.3		女性:36.6		女性:37.7
④平均勤続年数(年)	15.5	男性:15.8	15.5	男性:15.7	15.9	男性:16.1
		女性:13.6		女性:13.8		女性:14.7
⑤女性従業員比率(%)	13.5		13.6		13.2	
⑥女性管理職比率(%)	2.3		2.9		2.7	
⑦新卒採用者数(名)	57	男性:52	54	男性:47	49	男性:46
		女性: 5		女性: 7		女性: 3

## 2015年度目標と実績 <次世代育成支援行動計画(2015年4月1日～2018年3月31日)>

目標	実績
男性の育児参加を促進するための環境を整える	育児休業の取得促進を企図し、2015年4月から育児休業期間の一部を有給化(当該期間における積立特別休暇の取得制度を導入) 2015年4月から子の為の看護休暇を1日単位から半日単位に変更し、利便性を向上
従業員のワーク・ライフ・バランスの促進に向けて諸制度の充実を図る	労使による年間5日以上の年休取得推奨を実施した結果、取得率は72.5%(前事業年度より9.6ポイント増)となった

## ダイバーシティの推進

ADEKAグループ行動憲章では基本的人権の尊重について明記し、当社グループ全従業員が遵守しています。また、求人・雇用・昇進などあらゆる局面で、一人ひとりが個性を活かして活躍できるフィールドを整えています。就業規則においても個人の多様性や個性を尊重し、これを侵す一切のハラスメント行為を禁止しています。

### ダイバーシティ 2015年度の取り組み

定年退職者再雇用率	<b>100%</b> 2012年度から4年連続
障がい者雇用率	<b>2.2%</b>

海外グループ会社の従業員数	<b>1,084名</b> 2014年度比120名増
<b>理系女子学生を対象に 女性活躍推進セミナーを開催</b>	

### 現地に根ざした企業活動

ADEKAグループでは、海外で現地従業員を積極的に採用しています。ADEKA (SINGAPORE) PTE. LTD. (シンガポール)では、各国のお客様からのご要望に早くお応えできる体制を整えるため、近隣諸国で採用活動を行っています。2015年度はインドネシアで2名の現地従業員を採用しました。

採用活動のみならず、様々な国籍や考え方の従業員が共存しそれぞれの個性を発揮することができるよう、現地の文化に根ざした職場環境の整備を進めています。

しかし、多くの国ではジョブホッピング文化のため、人財育成に充てた時間や費用が無駄になってしまうリスクがあります。当社グループでは、経営理念の共有や

拠点間での研修など、“ADEKAグループの一員”を意識した取り組みにより現地従業員数は年々増加し、勤続年数の長い現地従業員も多くなってきました。



インドネシアでの採用活動(2015年10月)

### 女性の活躍

ADEKAグループは、採用や昇格など性別に関係なく門戸を開いており、女性の活躍を支援しています。2015年3月には、理系女子学生を対象に当社の女性従業員の働き方を紹介し、交流を図る「女性活躍推進セミナー」を実施しました。



#### 女性活躍推進セミナーを企画して

人事部 採用・育成グループ  
富岡 実由希(写真右)  
神谷 牧子(写真左)



女性活躍推進セミナーの実施(2016年4月)

2016年4月の女性活躍推進法施行をきっかけに、将来の日本を担う女子学生のキャリア形成の一助となればとの考えから本セミナーを企画・開催しました。

セミナーでは管理職や時短勤務者、若手など、様々な立場の女性社員と学生との交流の場を設け、学生からは「仕事に対する漠然とした不安が解消できた」「職業観を考えるうえで大変役に立った」などの感想をいただきました。今後も、女性の活躍を支援する取り組みを実行してまいります。



## ワーク・ライフ・バランスの推進

### ワーク・ライフ・バランス 2015年度の取り組み

平均時間外労働	<b>14.6時間／月</b> 2014年度比36分減
育児休業後の復職率・定着率	復職率、定着率ともに <b>100%</b>

### 労働時間の適正化

社員が健康でいきいきと働ける風土づくりの一環として、定時退社デーの設定や労働時間の適正化など、長時間労働の削減に取り組んでいます。これまで取り組みを継続してきた結果、2015年度は平均時間外労働が14.6時間／月と前年度比36分の削減を実現しました。



週1回の労使による定時退社パトロール

### 育児・介護支援を目的とする主な諸制度 ※下線部は法定以上

出産休暇	産前 6週間(多胎妊娠の場合は14週間) 産後 8週間
出生休暇	配偶者が出産した場合 <u>3日以内</u>
育児休業	原則、子供が1歳に達するまで 特別な事情がある場合、最大1年の延長を認める ※育児休業開始日を起算として連続5日間を上限に積立特別休暇の取得を認めるものとし、積立特別休暇を取得した期間については有給扱いとする
子の為の看護休暇	小学校4年生以下の子供を養育し、負傷し又は疾病にかかった当該子の世話(子の予防接種、健康診断、学級閉鎖を含む)をする場合、 <u>子供の数にかかわらず10日間／年まで</u> ※半日単位での取得も可
介護休業	要介護者1人につき、 <u>通算して365日まで</u>
介護休暇	要介護者1人につき、 <u>20日／年まで</u>
短時間勤務	育児:子供が小学校4年生の年度末を 迎えるまで 介護:介護休業と通算して365日まで ※どちらも30分単位で最長2時間まで短縮可

育児休業制度利用者数	<b>12名</b> うち男性4名、女性取得100%
------------	-------------------------------

年次有給休暇取得率	<b>72.5%*</b> 前事業年度より9.6ポイント増
-----------	----------------------------------

\*組合員平均。2015年7月～2016年6月の期間で算出

### 仕事と育児・介護の両立

当社では、社員の仕事と育児・介護との両立を支援するため、法定以上の充実した制度を導入しています。

2015年度は、育児休業期間の一部有給化や、子の為の看護休暇の取得条件の緩和に取り組み、育児関連の制度を利用した従業員は12名でした。

育児休業中、復帰に向けて知識やスキルを習得できる教育支援や(2015年度は16名が利用)、復帰後の短時間勤務制度(2015年度は22名が利用)など休業中や復帰後のサポートも強化しています。この結果、2015年度における育児休業後の復職率・定着率は、ともに100%でした。



### 育児休業を通じ 育児の大変さを実感

購買・物流部 資材グループ  
池田 元樹

第一子出産に際して、母子の里帰り後に1週間の育児休業を取得しました。

取得前は1週間を長いと感じていましたが、いざ育児に取り組んでみると想像以上に大変で、あっという間に過ぎてしまいました。今回の育児休業を通じて育児の大変さを体感できたとともに、日頃ひとりで育児に奮闘してくれている妻へ改めて感謝しました。

この度の育児休業取得にあたり、ご協力・ご支援いただいた上司、同僚をはじめ、関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。これからも仕事に育児に一生懸命取り組んでいきます。

## 人財の育成

ADEKAグループは、社員は企業にとって重要な経営資源であるという認識のもと、「人材」を「人財」と考え、一人ひとりの意欲と向上心を尊重し、次世代を担う人財の育成に取り組んでいます。

### 人財育成 2015年度の取り組み

海外研修派遣国先	<b>5カ国に拡大</b> アメリカ、中国、シンガポール、イギリス、ドイツ
海外研修派遣者数	<b>5名</b>
ビジネススクール通学制度利用者数	<b>62名</b>

### グローバル人財育成制度の充実

当社ではグローバル人財になるために必要な語学力や異文化対応能力、ビジネス慣習の習得を目的として、若手社員を中心に半年間、海外へ派遣する制度を設けています。2015年度は、派遣先を3カ国から5カ国に拡大し、国内外のお客様の様々なニーズに対応できる人財の育成を推進しました。また、国内の各事業所に外国人講師を招いての語学教室を開講しており(英語・中国語・韓国語)、100名が制度を利用しました。



海外研修の成果を発表

### 2016年度の目標 <次世代育成支援行動計画(2015年4月1日～2018年3月31日)>

目標	2016年度の取り組み目標
計画期間内に育児休業の取得実績として、男性が2人以上、女性は取得率80%以上を目指す	社内掲示板などを活用して引き続き制度の周知を行い、育児休業取得に対する意識づけを図る
男性の育児参加を促進するための環境を整える	育児参加への機会を拡充すべく、育児の為の短時間勤務制度を拡充する
従業員のワーク・ライフ・バランスの促進に向けて諸制度の充実を図る	介護と仕事の両立を支援すべく、介護休暇を拡充する
所定外労働削減への取り組みを継続的に実施する	週に1度の“定時退社デー”時に、労使共同の社内巡回実施を徹底する

### ビジネススクール通学制度

当社では、外部ビジネススクール通学制度などを通して、次世代を担う若手・中堅社員の育成に注力しています。ビジネススクールでは、マーケティングやリーダーシップ論を学ぶことで、様々な立場や役割のなかで目標を達成するための行動や考え方を鍛えています。また、外部のスクールで学ぶことで、会社を客観的に見る能力を養い、新しい風を吹き込む人財の育成を期待しています。



### ビジネススクール通学制度を利用して

法務・広報部 法務グループ  
武内 晋

企業経営全般に関する知識を習得したいとの思いから、外部のビジネススクール通学制度を利用して、経営戦略やアカウンティング、マーケティング、ファイナンスなど経営に関する幅広い知識を学びました。

スクールでは、他社の受講者と切磋琢磨することで自社内では得難い刺激を受けることができました。また、論理的に物事を考える癖がつき、文書作成や社内外の交渉に役立っており、以前よりも深く業界・企業分析ができるようにもなりました。

ビジネススクールでの学びを糧に、失敗を恐れず、積極的に提案し、今まで以上に業務に励んでいます。



# 労働安全衛生への取り組み

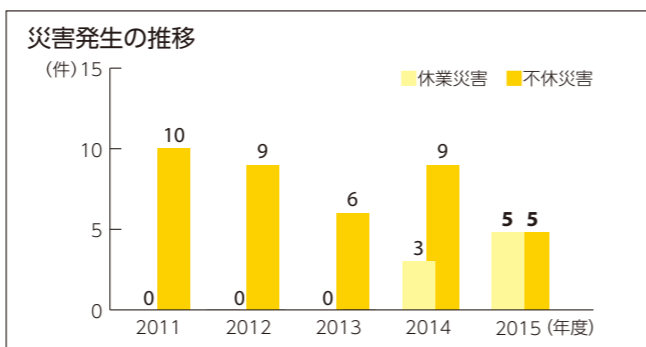
ADEKAグループは“保安・安全は企業の最重要課題である”という認識を持ち、労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001の運用、事業所ごとの安全衛生委員会やゼロ災害委員会の活動を通じて、社員の安全意識を向上し、安全な職場づくりに努めています。

## 労働安全

### 労働災害の発生状況

2015年度に当社で発生した労働災害は、休業災害5件、不働災害5件の合計10件でした。休業災害の内訳は骨折4件、熱中症1件です。災害を発生部署別に見ると、近年、工場の協力会社で多く発生しており、コミュニケーションを緊密にし、安全活動を共有することが課題です。

一方、年齢別に見ると40代以降の災害発生件数が増加傾向にあります。加齢による運動能力の変化や個人の体調・健康管理にも十分注意するとともに、know-why<sup>※</sup>教育や危険に気づく力を養う教育を推進していきます。



※ know-why：作業手順書などに書かれている内容を鵜呑みにするのではなく、「なぜ、そうするのか？」と疑問を持ち、その理由や原理、目的を理解すること

### 海外グループ各社連続無災害達成

ADEKAグループ生産拠点では「4つの安全(労働・品質・設備・環境)」をもとに改善活動を推進しており、海外拠点現地従業員にも“安全意識”が浸透してきています。

2015年度は台湾艾迪科精密化学股份有限公司で連続無災害50万時間を達成、AMFINE CHEMICAL CORP. (アメリカ)では、連続無災害35万時間を達成しました。



連続無災害記録証 (台湾艾迪科精密化学股份有限公司)

ケンタッキー州安全賞を受賞 (AMFINE CHEMICAL CORP.)

### 「職場対抗5Sコンクール」の開催

鹿島工場では、職場の「5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」を活性化することを目的に、年1回、職場対抗5Sコンクールを開催しています。

コンクールでは、工場内の各部署が執務エリアにおいて普段行っている5S活動をアピールし合い、また実際に職務エリアを巡回して審査を行います。開催を通じて、切磋琢磨し合うことで、当工場のみならず、ADEKAグループ全体の5Sレベル向上に繋がるよう取り組みを継続していきます。



### 過去災害データベースの構築

過去に発生した災害を一元管理したWEBデータベースを構築し、2016年度から運用を開始しました。過去災害の統計を活用することにより、災害事例と再発防止に役立てています。今後、本データベースシステムを利用して各事業所の作業基準・標準のデータベース化を実施していく予定です。これにより、各事業所の安全に関する情報を見える化し、安全資料の充実や安全教育の強化を図り、災害・事故の防止に努めていきます。



過去災害データベース画面(イメージ)

## 従業員の健康維持

### 従業員の健康管理

ADEKAグループでは、全従業員を対象に年2回の定期健康診断を行っています。定期診断受診率は100%を維持し、健康診断で所見ありと診断された従業員の再受診率も2015年度は99.9%でした。今後も産業医や保健スタッフによる常時フォローを継続していきます。

### ヘルシー弁当を導入

浦和開発研究所では、2015年度からヘルシー弁当を導入しました。従来の約半分のカロリーをカットした弁当は、健康に気をつかう従業員に好評を得ています。千葉工場でも低カロリーメニューを導入するなど、従業員の生活習慣を予防する一助となる活動を推進しています。



### メンタルヘルスケアの取り組み

ADEKAでは、労働安全衛生法の改正趣旨に則り、2015年12月に、ストレスチェック制度に関する基本方針を策定しました。2016年度から毎年5月にストレスチェックを実施していきます。

### ストレスチェック制度に関する基本方針(抜粋)

1. 対象者は全従業員です。50名未満の小規模事業所の従業員、国内および海外出向者も対象とします。
2. 従業員の状況を日頃から把握している事業所の産業医を実施者とし、産業医を中心とした実施体制をとります。
3. すべての事業所で医師による面接指導が行われるよう外部サービスと連携して体制整備を行います。
4. 集団分析の結果に基づき、必要に応じて各事業所で対策を検討し、職場環境の改善を行います。

## 保安防災

ADEKAグループは、事故や災害の未然防止を図ることを大前提とし、周辺にお住まいの地域の皆様に信頼される環境づくりに努めています。

各事業所では、保安防災に関するリスクアセスメントの推進、建築物・プラントの地震対策、設備の保安管理システムの点検・整備に注力しています。

### 国内外で定期的に防災訓練を実施

ADEKAグループでは、自然災害や化学物質漏えいに伴う火災など、様々なケースを想定した総合防災訓練を定期的に行っています。応急処置や避難状況などの訓練結果をフィードバックし、全従業員に共有・教育することで、“もしも”のときに従業員一人ひとりが冷静に対処できるよう努めています。



関係会社と合同で訓練を実施 (艾迪科精密化学(常熟)有限公司)

消防訓練の実施 (艾迪科食品(常熟)有限公司)



Together with Stakeholders

# ステークホルダー とともに

## 株主・投資家

### 適時・適切な情報開示

ADEKAは、「ディスクロージャーポリシー」に基づき、株主・投資家の皆様をはじめとした全てのステークホルダーに対して、正確な会社情報を適時・適切かつ公平に開示することに努めています。

また、法令などで定められた範囲にとどまらず、決算情報や事業計画など、経営に関する重要情報を積極的に開示しています。



第154回定時株主総会

### 配当政策

当社は、中長期的視野に立った成長事業領域への投資などを行うための内部留保資金を確保しつつ、株主の皆様に適正な利益還元を安定的かつ継続的に行うことを基本方針としています。2015年度の年間配当金は、前年度から4円増配の1株あたり30円/年としました。

### IR活動

機関投資家・アナリストに向けた決算説明や決算説明ツールの発行など、積極的なIR活動を推進しています。2015年度は、半期ごとの決算説明会や115回の個別ミーティングに加え、工場見学会を実施しました。



機関投資家向け工場見学の実施(鹿島工場)

## お客様

ADEKAグループでは、お客様の課題を独自の技術やソリューションで解決できるよう、展示会や学会に積極的に参加して当社製品をアピールしています。

また、お客様向けに技術研修や講習会などの催しを行うことで、日頃のお客様の課題を見つけながら、解決に努めています。



海外展示会への出展



### お客様との 技術交流会を実施して

食品開発研究所 第一食品開発室長  
武田 了

ADEKA FOODS (ASIA) SDN. BHD.のお客様をADEKA本社にお招きして、製パン・製菓に関する技術交流会を実施しました。目的は原材料への理解を深め製品の品質向上を図ることです。

海外のお客様と一緒に技術研修を行うことで、嗜好の違いなどを教えられることが多く、“食”はその土地の歴史・風土・気候などに深く関わっていることを実感します。



今後もこのような国内外のお客様との交流を通じて、お客様が求めるパンやお菓子にベストマッチする製品を、ADEKAグループ一丸となって世界に広げていきたいと思ひます。

## 株主・投資家

## 取引先

## 地域・社会

## お客様

## 行政

## 将来を担う子どもたち

未来へはばたく子どもたちが健全に成長していくことを願ひ、ADEKAグループでは「カガク」を通じて子どもたちの支援活動を行っています。



インターンの受け入れ  
艾迪科食品(常熟)有限公司



小学校での出張授業  
(AMFINE CHEMICAL CORP.)



化学実験教室の開催



小中学生柔剣道大会「ADEKA杯」の主催

## 将来を担う子どもたち



行政

ADEKAグループは法令遵守と納税の義務を果たすだけでなく、良き企業市民として行政・NPOと連携し、地域政策と公共福祉の推進に積極的に参画しています。

災害時に井戸水を提供する協定を締結

三重工場では、周辺の豊富な井戸水を冷却用として生産に使用し、使用後は一般水として地域の農地用水に再利用されています。

地域貢献の活動を高めたいと考えていたところ、2016年1月に東員町と「災害時における井戸水の使用に関する協定」の締結に至りました。

今後も行政や地域の皆様と対話を続け、地域社会に貢献できるよう取り組んでいきます。



取引先

安定・安心な原料調達

ADEKAでは、2002年に「購買管理基準」を制定し、取引先との信頼と連携に基づいた公平・公正な調達活動を展開しています。

お客様に安定して製品を供給するため、適正に製品在庫を持つだけでなく、調達先において当社製品で使用する原料の在庫保持や購買先の複数化などの取り組みを進めています。

また、原料メーカーおよび生産委託先に赴き、定期的な品質監査を行うことで、原料調達から製品提供までのトレーサビリティ管理を徹底しています。

物流でのハラル対応の取り組み

ADEKA FOODS (ASIA) SDN. BHD.では、物流企業数社を対象に、ハラルへの理解を互いに深めることを目的に、面談や勉強会を実施し、参加した物流企業のうち、1社がハラル認証を取得しました。

物流以外でも、マレーシアにおけるハラル先進企業として行政から講演に招へいされるなど、ステークホルダーからの期待を感じています。今後も安心・安全な製品をお届けするため、ハラル推進活動を強化していきます。



パートナーシップの強化

ADEKAグループは、取引先企業とともに成長し、発展していくことを目指しています。毎年、経営トップから事業方針などを説明する機会を設けるとともに、日頃から情報・意見交換を行うことで相互理解を深め、関係強化に努めています。

また、食品事業では、販売代理店の営業担当者とADEKAグループの新入社員を対象に油脂の基礎知識や商談スキルを学ぶ「リス大学」を開講しており、お客様にご提案するために企業の域を越えて“協力してはたらくこと”の重要性を学ぶ場としています。



化学品特約店会の開催



「リス大学」の開講

行政

取引先

お客様

将来を担う子どもたち

株主・投資家

地域・社会

企業が存在し続けることができるのは、地域の皆様や社会のご理解・ご協力があってこそだと考えます。ADEKAグループでは、地域・社会と寄り添いながらともに成長していけるよう、貢献活動を継続しています。



地元産業祭への出展(相馬工場)



児童養護施設にクリスマスケーキを寄贈(明石工場)



地元市場の利用促進キャンペーンに参加(ADEKA KOREA CORP.)

地域・社会

熊本地震の被災地支援

ADEKAグループは、このたびの平成28年熊本地震で、被災された皆様の救援や被災地の復旧に役立てていただくため、1,000万円の義援金を、日本赤十字社を通じて寄付いたしました。

被災地の一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。



### グローバル・レベルのCSRに向けて

高崎経済大学経済学部 教授 水口 剛氏

高崎経済大学経済学部教授、経営学博士(明治大学)。専門は、責任投資、非財務情報開示。1997年高崎経済大学経済学部講師、同准教授を経て、2008年より現職。環境経済・政策学会監事・理事、中央環境審議会・環境と金融専門委員会委員、日本公認会計士協会・環境会計専門部会部会長などを歴任。著書に、「責任ある投資-資金の流れで未来を変える」(岩波書店)、「環境と金融-投資の潮流」(編著、中央経済社)などがある。



#### 事業を通じた社会的価値の創造

1917年の創業以来、それぞれの時代のニーズに応えつつ事業を発展させてきた貴社の100年の歩みに敬意を表します。今回、特集で取り上げられているさまざまな樹脂添加剤は、目立たないけれども重要な役割を果たしており、まさに事業を通じて社会に貢献していると言えるでしょう。本業を通じた価値の創造はCSRの原点だと思います。

一方で社会的責任の範囲は、その企業の影響力の大きさに比例する面があります。貴社は、2025年のありたい姿として「先端技術で価値を創造するグローバル企業」というビジョンを描かれています。それを指すのであれば、社会における責任もより重くなるものと思います。これまでも環境保全や従業員の働きやすさなどの面で誠実に取り組まれてきたと評価しますが、今後も今までの延長線上で良いのか。真のグローバル企業として世界で認められるためには、社会が共有する課題により幅広く取り組む体制づくりが必要ではないでしょうか。そのような観点から、以下2つの点を指摘したいと思います。

#### パリ協定を受けた対応を

2015年にはCSRに関連する2つの大きな国際合意がありました。1つは国連による持続可能な開発目標(SDGs)、もう1つはCOP21におけるパリ協定です。企業としてもこれらの国際的な目標にいかに関与するかが問われます。特にパリ協定では、地球の平均気温

上昇を2℃より十分に下回る水準に抑えることで合意し、今世紀後半には人為的な温室効果ガスの排出と吸収を均衡させるとの目標を示しました。実質排出ゼロを目指すというこの目標は、これまでのビジネスの前提そのものを大きく変えるものと言えます。それに対する準備は十分でしょうか。たとえばCDPやグローバルコンパクトなどは共同で2℃目標と整合性のある「科学的根拠に基づく目標(Science Based Target)」の策定を求めています。このような国際的な活動に参加することも検討課題の1つだと思います。

#### サプライチェーンのESGリスク

ESG(環境、社会、コーポレートガバナンス)問題の中で、近年関心が高まっているものの1つがサプライチェーンのリスクです。例えば貴社では、食品事業の原材料としてパーム油が使われていますが、パーム油は熱帯林破壊との関わりが懸念される代表的な原材料の1つですから、調達先の選択には十分注意する必要があります。また、半導体材料などの分野で鉱物資源を使うとすれば、採掘時に生物多様性の毀損がないかどうか気になります。そのほか、サプライチェーンにおける強制労働の有無など、一般にリスクがあると思われる問題については個別に取り上げて対応状況を説明されると良いのではないのでしょうか。

これまでCSRに真摯に取り組んでこられた貴社だからこそ、ぜひ、さらに進んだCSRを目指してほしいと願っています。

貢献」と「サプライチェーンのリスク管理」については、当社グループのCSR活動をグローバル・レベルで推進していくための重要課題と受け止め、企業活動が社会に与える影響と社会が企業に求めていることを認識し、国際社会の一員としての責任を果たしてまいりたいと考えています。

今後も、ステークホルダーの皆さまの期待に応えるべく、企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けてCSR活動を実践してまいります。

### 第三者意見をいただいて

取締役執行役員 田島 興司

ADEKAグループのCSR活動に関して、評価と貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

今回のレポートでは、本業を通じて豊かなくらしに貢献するという当社グループの使命をお伝えするため、コア事業の1つである樹脂添加剤事業のグローバルな「研究・生産・販売」の取り組みを特集で掲載しました。水口先生にご評価いただいたことは、今後の励みとなりました。

一方で、ご意見をいただいた「国際的な目標への

## 「ADEKAグループCSRレポート2015」アンケート結果

今後の活動やレポートの充実のためにアンケートを実施しました。皆様より貴重なご意見・ご感想をいただき、ありがとうございました。アンケート結果をご報告いたします。

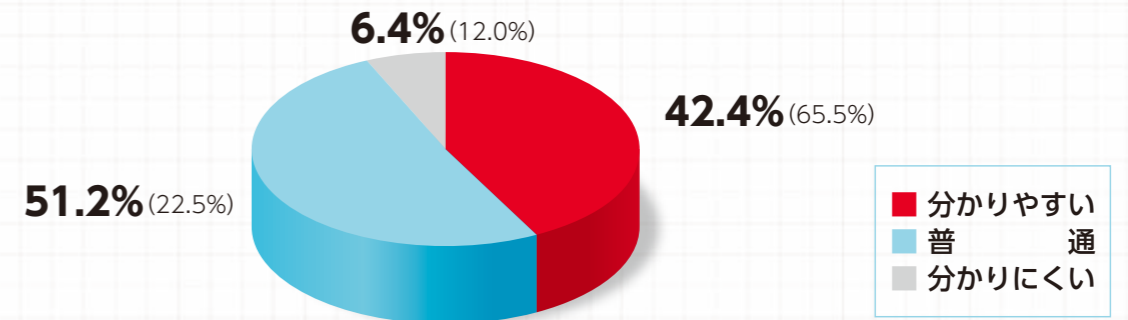
有効回答数:450件(2014年アンケート:351件)

※当社グループ関係者回答を含む

アンケート方法:巻末アンケート、外部ウェブアンケート

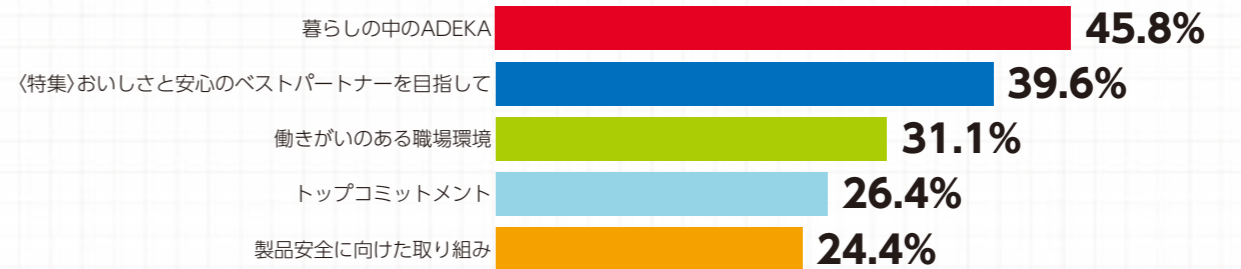
### 「ADEKAグループCSRレポート2015」の内容について

(括弧内は2014年アンケート数値)



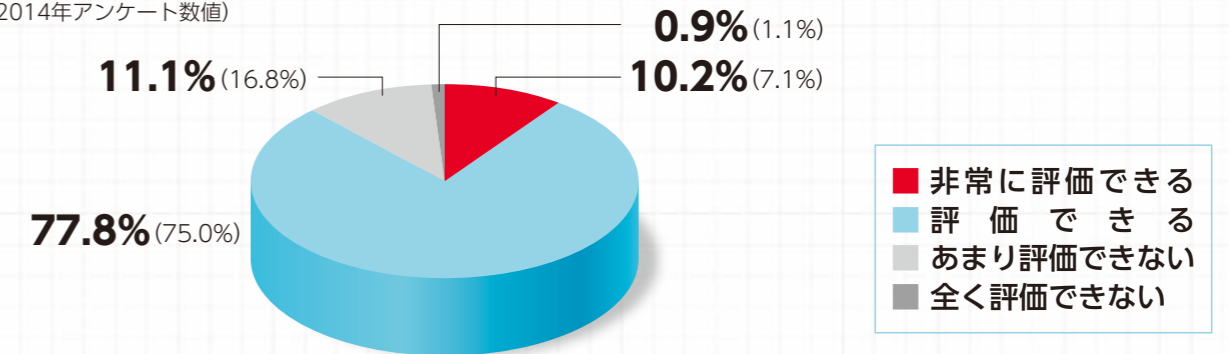
### 興味を持って読んだ記事

(複数回答あり)



### 当社グループのCSR活動について

(括弧内は2014年アンケート数値)



### 主なご意見

食の安全が一番身近な問題であり、特集で詳しく取り上げられており、良かった。

形式的にデータを収集して報告している内容が多いので、分かりやすくしてほしい。

今後、環境保全活動の△(計画を下回る)が早く○(計画達成)になることを期待したい。

過去のCSRレポートは当社ホームページでご覧いただけます。

<http://www.adeka.co.jp/csr/report/index.html>





# ADEKA

## 株式会社ADEKA

〒116-8554 東京都荒川区東尾久七丁目2番35号  
ホームページアドレス <http://www.adeka.co.jp>

### お問い合わせ先

法務・広報部

TEL: 03-4455-2803 FAX: 03-3809-8210

メールアドレス: [somu@adeka.co.jp](mailto:somu@adeka.co.jp)





CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY

CSR **2016**  
レポート

環境データ集





## 目次

環境データ集について	1
環境基本方針・推進体制	2
環境行動目標	3~4
環境会計	5
事業活動のマテリアルフロー	6
地球温暖化の防止／水質汚濁の防止／大気汚染の防止	7~8
資源の有効活用	9~10
化学物質の排出防止	11
マネジメントシステム取得状況	12

## 環境データ集について

### 報告対象期間

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日)

※海外グループ会社は2015年1月1日から2015年12月31日  
 ※一部、2016年度の内容を含む記述もあります。

### 報告対象範囲

ADEKAおよび主要な国内・海外のグループ会社を対象としています。

※海外グループ会社は、対象企業が増加しているため、数値の変動があります(2011年度から2012年度は9社を対象、2013年度から2014年度は10社を対象、2015年度は11社を対象)。

国内グループ会社	海外グループ会社
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ADEKAケミカルサプライ(株)</li> <li>● ADEKA物流(株)</li> <li>● ADEKAグリーンエイド(株)</li> <li>● (株) ヨンゴ</li> <li>● ADEKAファインフーズ(株)</li> <li>● ADEKAライフクリエイト(株)</li> <li>● ADEKA総合設備(株)</li> <li>● 上原食品工業(株)</li> <li>● オキシラン化学(株)</li> <li>● (株)東京環境測定センター</li> <li>● ADEKA食品販売(株)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AMFINE CHEMICAL CORP.</li> <li>● 艾迪科精細化工(常熟)有限公司</li> <li>● ADEKA (SINGAPORE) PTE.LTD.</li> <li>● ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.</li> <li>● ADEKA KOREA CORP.</li> <li>● 艾迪科食品(常熟)有限公司</li> <li>● 台湾艾迪科精密化学股份有限公司</li> <li>● ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC</li> <li>● ADEKA PALMAROLE SAS</li> <li>● ADEKA FOODS (ASIA) SDN. BHD.</li> <li>● 艾迪科精細化工(上海)有限公司</li> </ul>

本データ集において、グループ全体を指す場合には「ADEKAグループ」、(株) ADEKA単独を指す場合には「ADEKA」または「当社」と表記しています。

### お問い合わせ先

株式会社ADEKA 法務・広報部

〒116-8554 東京都荒川区東尾久7-2-35

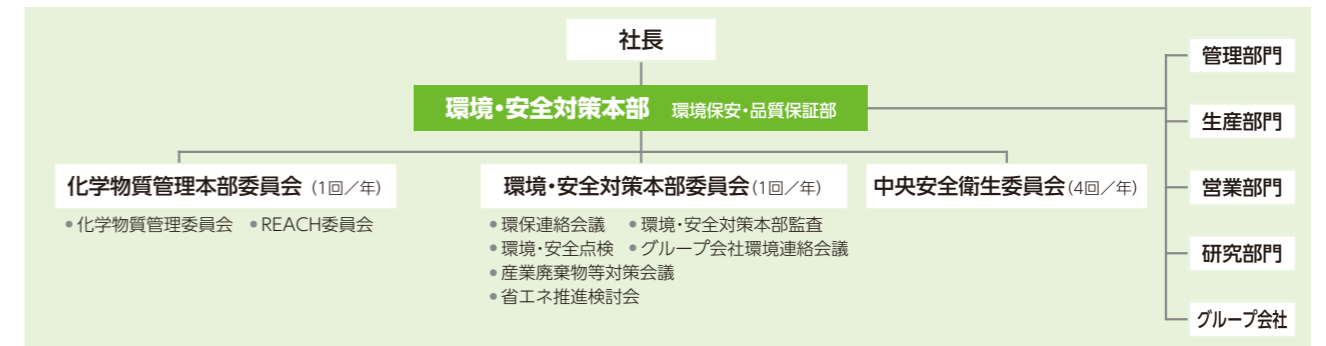
TEL:03-4455-2803 FAX:03-3809-8210 メールアドレス:somu@adeka.co.jp

## 環境基本方針

1. 環境汚染の防止のため、省資源、省エネルギー、廃棄物の抑制および再資源化に努める。
2. 環境に関連する国内外の法令および規制を遵守するとともに、自主管理を強化し、さらなる環境保全に努める。
3. 事業活動は生物多様性が生み出す恩恵に依存していることを自覚し、生物多様性の保全を図る。
4. 環境負荷の低い原材料を積極的に調達し、循環型社会の実現に貢献する。
5. 環境保全に関する活動の成果を社会に公表する。
6. ステークホルダーとコミュニケーションを図り、社会や地域における環境保全活動への支援を行う。

## 環境管理推進体制

執行役員を本部長とする環境・安全対策本部が定めた方針のもと、各事業所が定めた実施計画に基づき、PDCAサイクルを通じて環境管理活動の継続的な改善を図っています。





環境行動目標

ADEKAでは環境保全のための重要な項目について、数値目標を定めて活動を進めています。

集計対象:ADEKA

項目	対象範囲	中長期目標	2015年度の目標	2015年度の実績	今後の課題
省エネルギーの推進	生産部門	エネルギー原単位 <sup>*1</sup> を年率1%以上改善	エネルギー原単位を前年度比1%以上改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エネルギー原単位:0.1846kl/t (前年度対比0.6%削減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電力・蒸気を主とした固定エネルギーの削減に向けた管理強化</li> <li>●製造プロセスの改善による省エネルギー</li> </ul>
温室効果ガスの排出削減	生産部門	CO <sub>2</sub> 排出量原単位を年率1%以上削減	CO <sub>2</sub> 排出量を前年度対比1%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CO<sub>2</sub>排出量:141,290t (前年度対比0.8%削減)</li> </ul>	
産業廃棄物の削減	ADEKA全事業所	産業廃棄物の適正な処理の推進 完全ゼロエミッション <sup>*2</sup> 継続	産業廃棄物発生量を前年度比1%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産業廃棄物発生量:40,508t (前年度対比2.6%削減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産技術の向上による廃棄物の発生抑制</li> <li>●計画生産、計画販売による余剰製品、長期在庫製品の発生抑制</li> <li>●廃棄物の有価物化・再資源化ルートの探索</li> <li>●不正転売防止対策強化 (電子マニフェスト導入の拡大など)</li> <li>●産業廃棄物処理業者への現地査察</li> </ul>
			完全ゼロエミッション継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最終埋立処分量:18.9t</li> <li>●4年連続で完全ゼロエミッション(0.047%)を達成</li> </ul>	
環境負荷物質の排出削減	生産部門 および 研究部門	PRTR <sup>*3</sup> 対象化学物質排出量を2020年度までに2010年度対比20%削減	PRTR対象化学物質排出量の削減努力と維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大気への排出量:5.0t (前年度対比26.4%増加、2010年度比152.6%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PRTR対象化学物質排出量の削減に向けた管理強化の維持・継続</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共水域への排出量:3.0t (前年度対比1.1%増加、2010年度比12.3%)</li> </ul>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動量:152.3t (前年度対比5.1%増加、2010年度比61.6%)</li> </ul>	
グリーン購入の推進	ADEKA全事業所	2020年度までに特定の文具類についてグリーン購入率を80%以上に向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>●文具類:78.2% (購入点数8,141品目中6,370品目)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続きグリーン購入推進</li> </ul>

※1 生産効率を客観的に表す指標で、単位量の製品を生産するために必要なエネルギー量(原油換算)

※2 最終埋立処分量が産業廃棄物発生量の0.1%未満になること(当社定義)

※3 外部へ委託処理した産業廃棄物のうち、再生利用、資源回収、熱回収等により有効利用される産業廃棄物の割合(当社定義)



### 環境会計

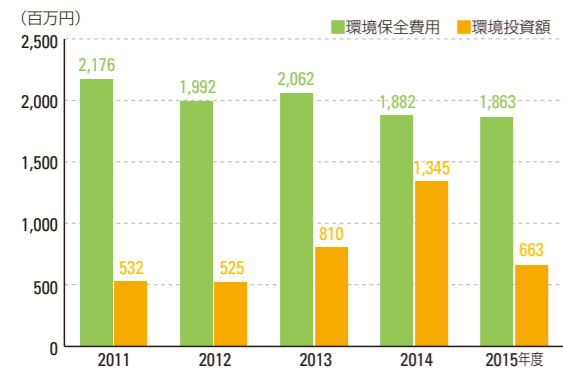
環境経営促進のため環境保全に要したコストとその効果を算出・検証しています。  
 集計にあたっては、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」、「環境保全コスト分類の手引き2003年版」、  
 (社)日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン」を採用し、信頼性、比較可能性、検証可能性を  
 重要視した環境会計情報を開示しています。

集計対象:ADEKA(研究・生産部門)、ADEKAファインフーズ、オキシラン化学、上原食品工業

環境保全コスト 単位:百万円

分類	主な内容	保全費用	投資額
(1)事業エリア内コスト	環境負荷を抑制するための環境保全活動全般	1,614	653
内訳	①公害防止コスト	大気・水質・土壌汚染、騒音・悪臭・地盤沈下等の防止	366
	②地球環境保全コスト	地球温暖化防止(省エネ)、オゾン層破壊防止	246
	③資源循環コスト	廃棄物の発生抑制、削減、リサイクル等の資源循環	41
(2)上・下流環境負荷抑制コスト	グリーン購入、容器包装の環境負荷低減、製品の回収・再商品化	13	0
(3)管理活動コスト	環境ISO、環境情報開示、環境負荷監視、緑化	84	0
(4)研究開発コスト	環境保全に関する研究・開発費	148	10
(5)社会活動コスト	事業所外の緑化・美化、環境保護団体への寄付・支援	3	0
(6)環境損傷コスト	水質・土地汚染等の浄化、自然修復	2	0
合計		1,863	663

環境保全費用と環境投資額の推移



環境保全対策に伴う経済効果

単位:百万円

効果の内容	金額
リサイクルにより得られた収入、有価物の売却益等	162
環境から事業活動への資源投入に伴う費用の節減	202
事業活動から環境への負荷および廃棄物排出に伴う費用の節減	54
環境損傷対応費用の節減	0
物流費その他の費用の節減	11
合計	429

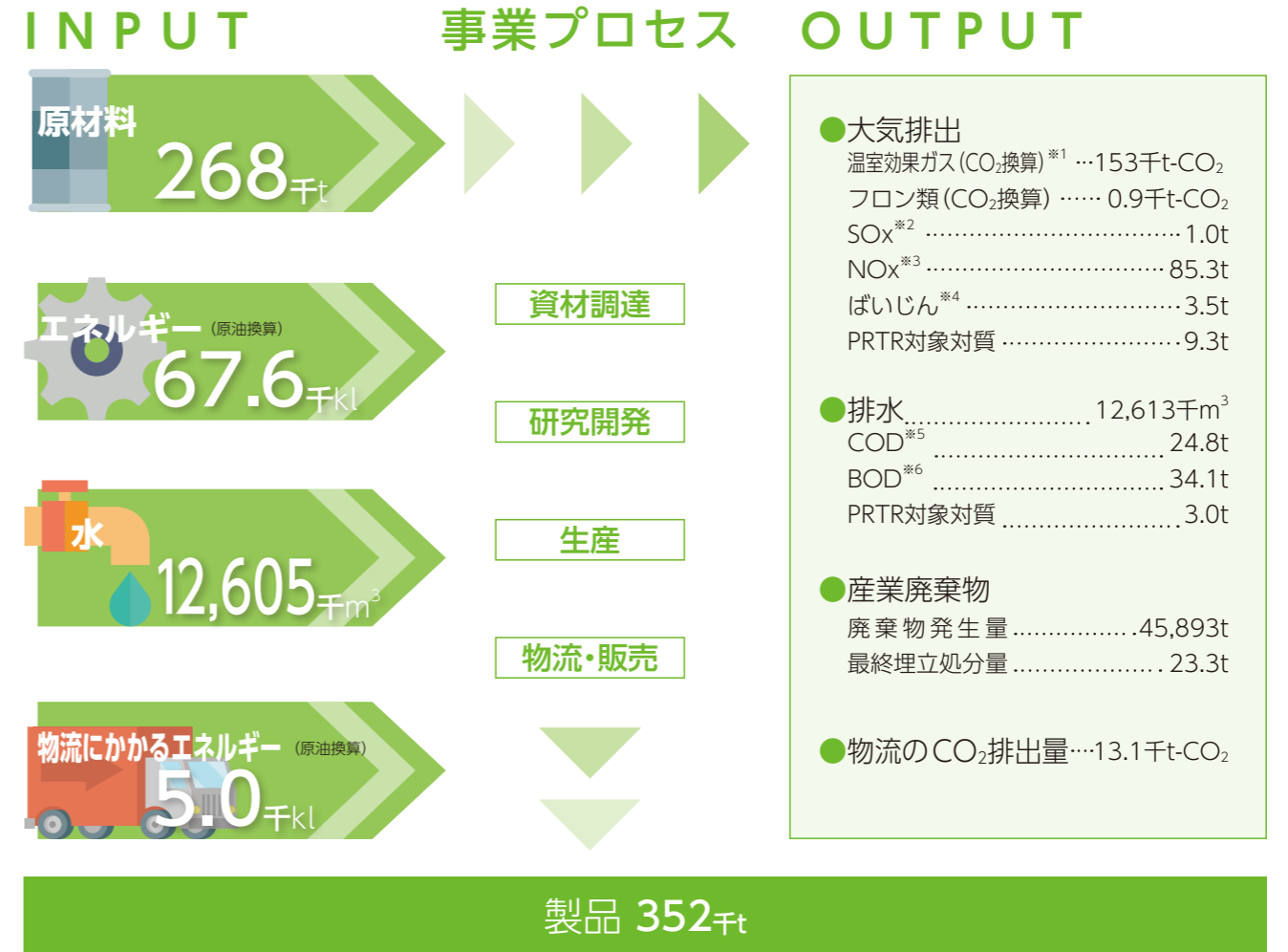
環境保全効果

環境パフォーマンス指標	数値
特定の管理対象物質投入量	16,694t
使用済み製品、容器、包装の循環使用量	589t
容器包装使用量	5,694t
製品の輸送量	133,114千t・km

### 事業活動のマテリアルフロー

ADEKAグループは生産工程などの事業活動で発生する廃棄物の排出量削減と、再資源化に取り組んでいます。

集計対象:ADEKAおよび国内グループ会社11社



※1 エネルギー起源、非エネルギー起源、プロセス起源などトータル排出量

※2 硫黄を含む燃料の使用時に発生する硫酸化物

※3 工場のボイラー、焼却炉での燃焼時に発生する窒素酸化物

※4 燃料などの燃焼時に発生する微粒子状物質

※5 有機物を酸化するときに消費される酸素量

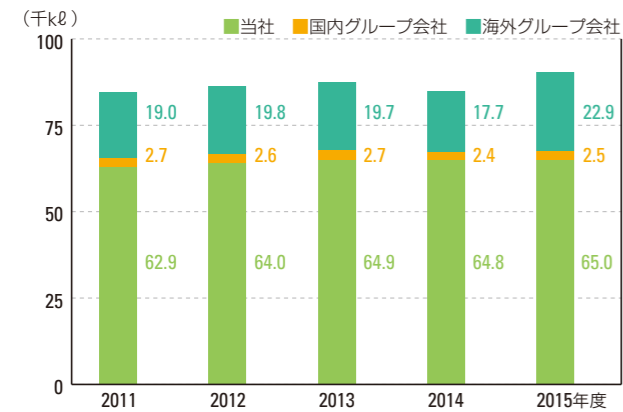
※6 河川水や工場排水中の汚染物質が微生物によって無機化・ガス化されるときに必要とされる酸素量



## 地球温暖化の防止

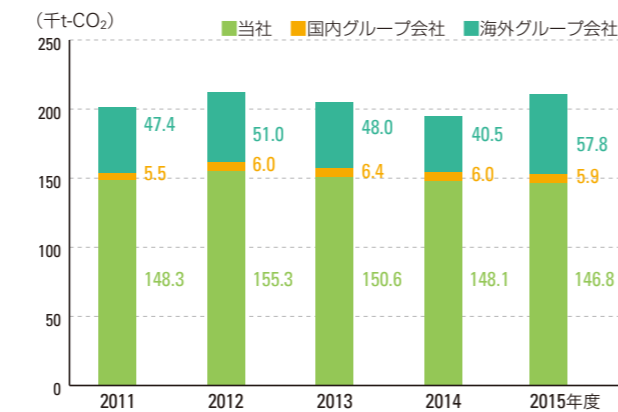
ADEKAグループは、事業活動を通じた持続可能な社会の実現に向け、プロセス改善による省エネルギー推進、蒸気配管やタンクの保温などで使用する固定エネルギーの削減を計画的に実施し、生産活動に使用するあらゆる種類のエネルギー削減に取り組んでいます。

エネルギー使用量\*

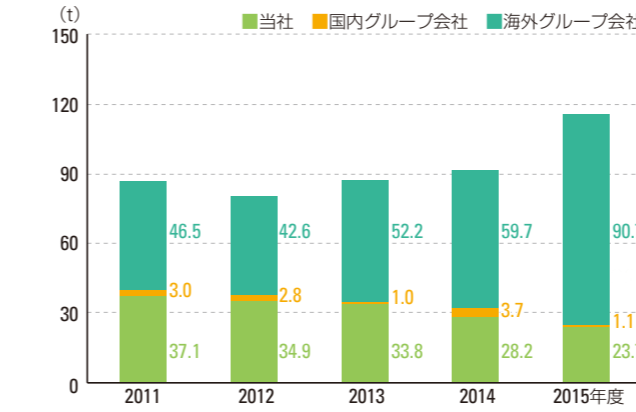


\*各拠点における集計範囲を見直したため、昨年開示した数値と異なります。

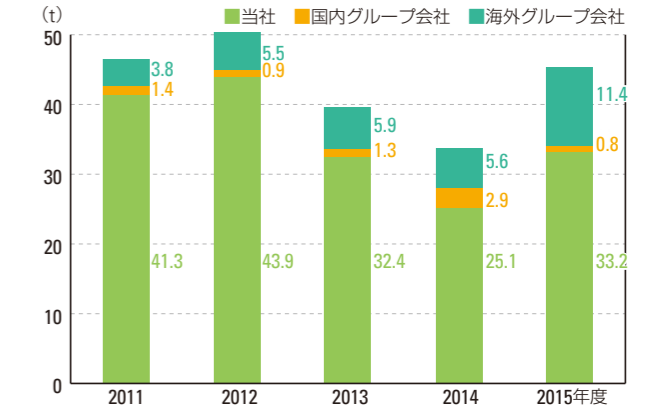
温室効果ガス排出量\*



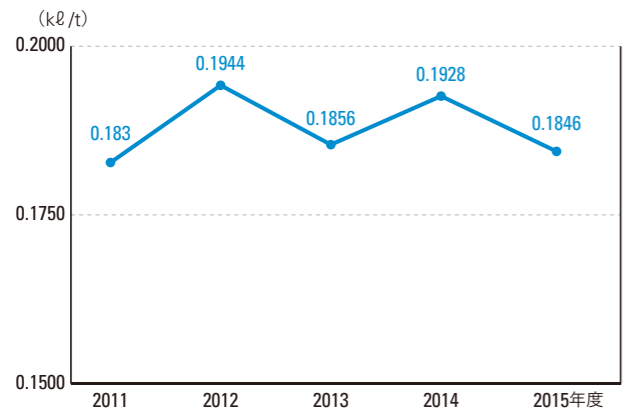
COD 排出量



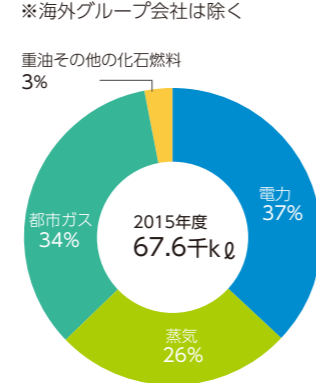
BOD 排出量



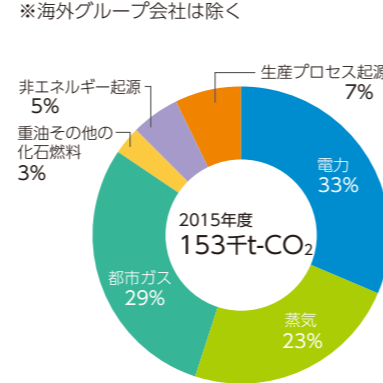
エネルギー原単位 (当社生産部門)



エネルギー使用量の内訳



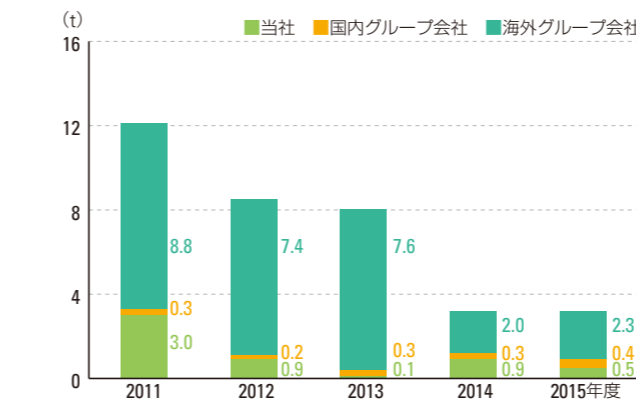
温室効果ガス排出量の内訳



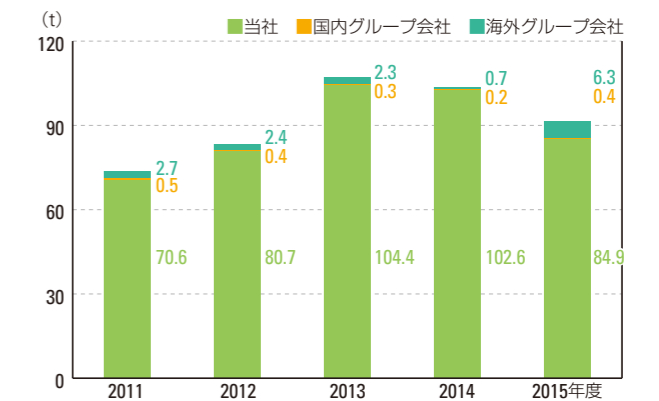
## 大気汚染の防止

ADEKAグループは、生産部門や研究開発部門における環境保全対策として、大気汚染の防止に継続的に取り組み、SOx・NOx・ばいじんの大気環境中への排出抑制に努めています。

SOx 排出量の推移



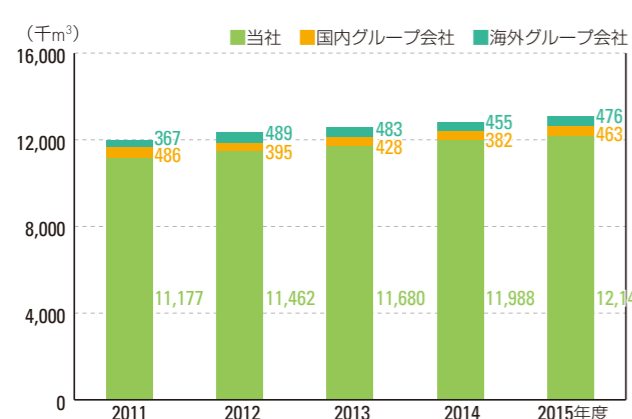
NOx 排出量の推移



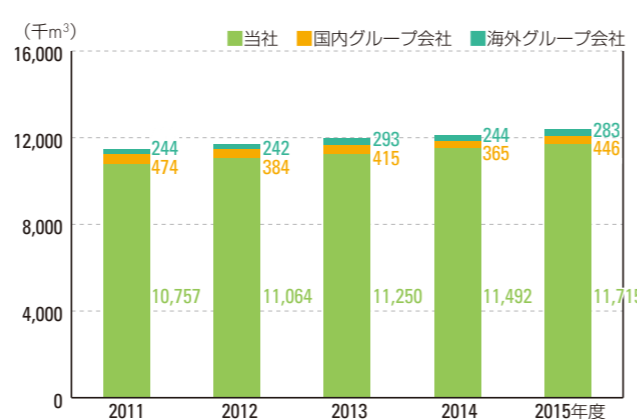
## 水質汚濁の防止

ADEKAグループでは、循環型社会の構築に欠かせない水資源の保全・水質汚濁の防止のため、生産工程の排水を回収し、循環的に再利用しているほか、各法規制に基づき排水の環境負荷低減に取り組んでいます。

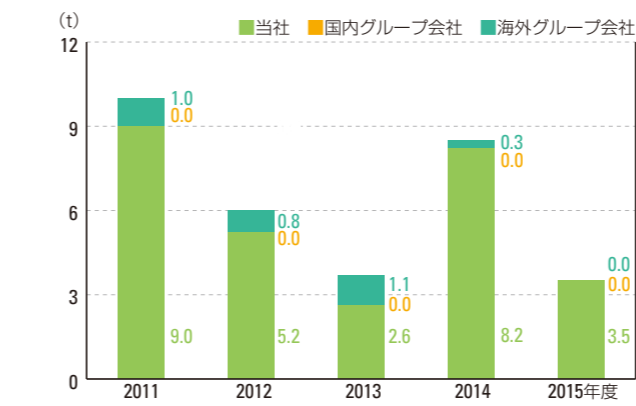
水使用量\*



排水量



ばいじん排出量の推移



\*各拠点における集計範囲を見直したため、昨年開示した数値と異なります。



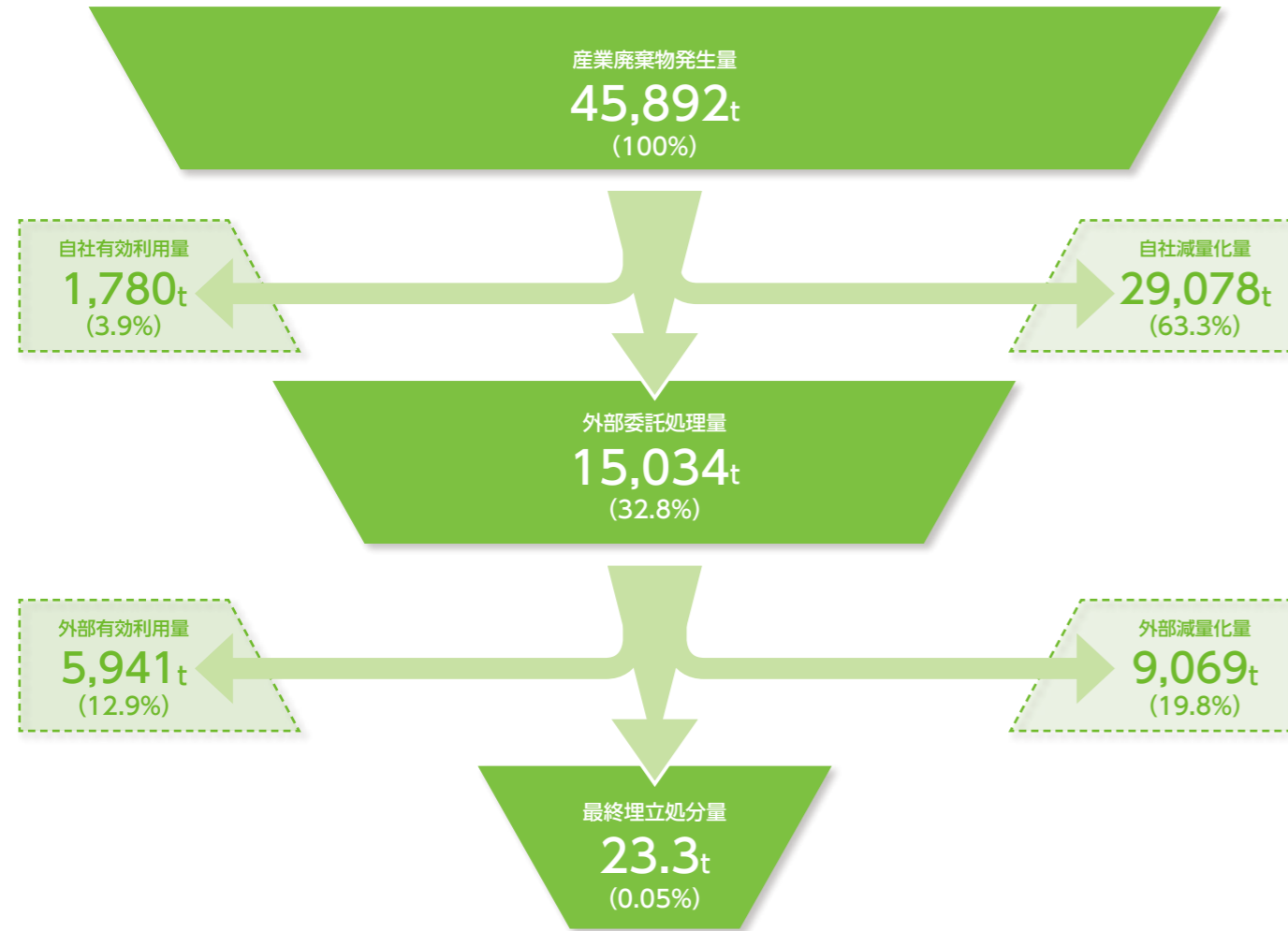
### 資源の有効活用

ADEKAグループでは、産業廃棄物の削減(リデュース)、再使用(リユース)、再資源化(リサイクル)の3Rに取り組み、2007年以降、ゼロエミッションの達成を継続しています。

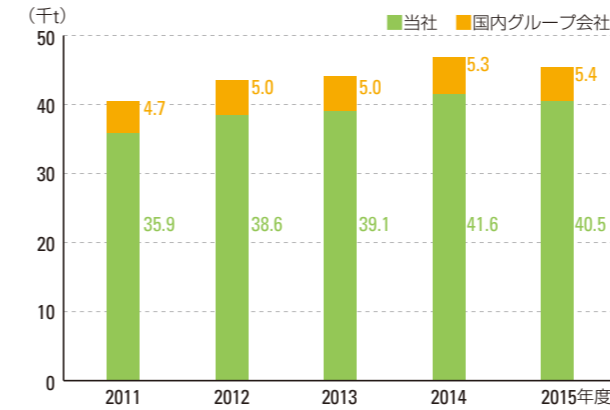
2015年度の生産数量は対前年度比0.9%増加となりましたが、産業廃棄物発生量は同2.2%削減し、資源効率性の良い生産活動を達成しました。また、滞っていたPCB廃棄物の処理が大きく進捗し、PCB廃棄物処理完了の道筋が立ちました。今後も引き続き資源の有効活用、廃棄物の適正処理を推進します。

集計対象:ADEKAおよび国内グループ会社11社

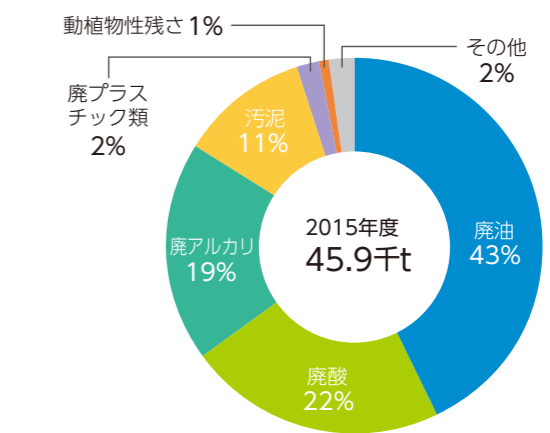
廃棄物の再利用・処理状況 (括弧内は産業廃棄物発生量に占める割合)



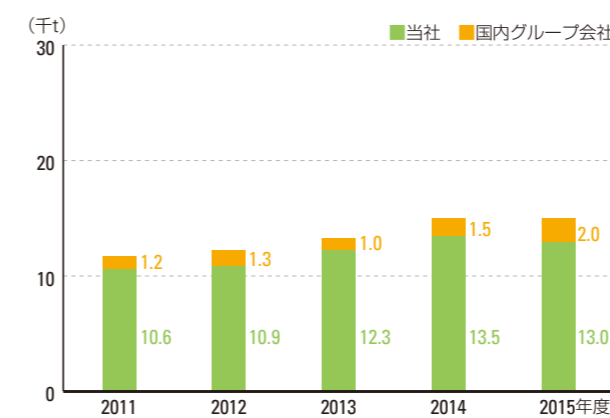
産業廃棄物発生量の推移



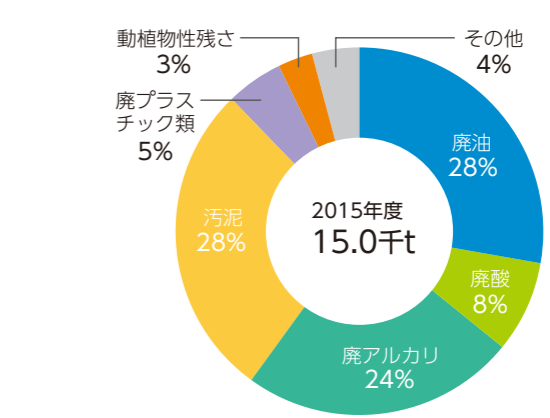
産業廃棄物の内訳



外部委託処理量の推移\*

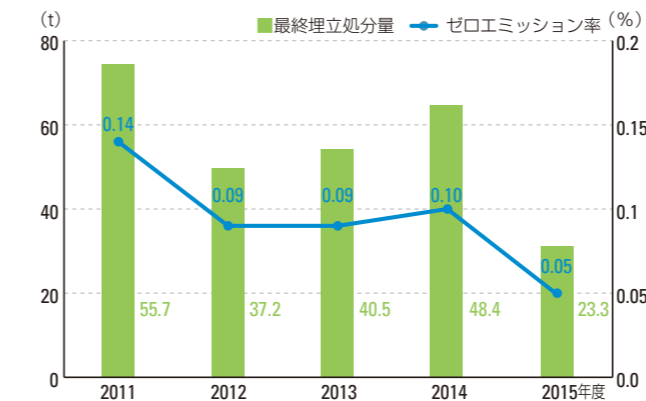


外部委託処理量の内訳

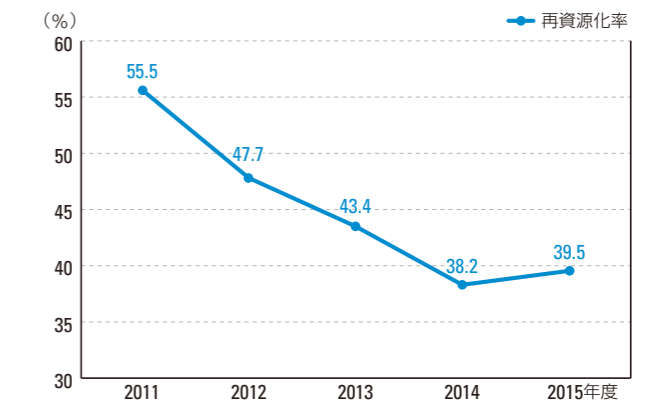


\*「環境データ集2015」での国内グループ会社数値に誤りがありましたので修正しています。

ゼロエミッション率の推移



外部再資源化率の推移





### 化学物質の排出防止

ADEKAグループは、1997年度からPRTRに関する調査を開始し、対象化学物質の使用量および製造プロセスからの排出量を定量的に算定するとともに、適正な管理に努めています。

PRTR法の改正により、2011年度報告から対象となる物質が462物質になりました。

2015年度はこのうち71物質について報告しています。

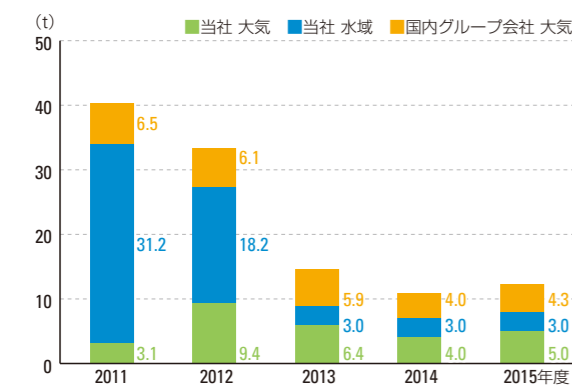
集計対象：ADEKA(生産・研究開発部門)、オキシラン化学

(単位:t)

化学物質名	排出量				移動量	
	大気	公共水域	土壌	埋立処分	下水道	事業所外
エチルベンゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0
エピクロロヒドリン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
塩化第二鉄	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
キシレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0
クロロベンゼン	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0
クロロメタン	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ジクロロエタン	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0
ジクロロメタン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.9
2,6-ジターシャリープチル-4-クレゾール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
N,N-ジメチルホルムアミド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
デシアルアルコール	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
トリエチルアミン	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	8.9
トルエン	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	15.3
ナフタレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
二硫化炭素	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ピリジン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
ノルマルヘキサン	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
ペルオキシ二硫酸の水溶性塩	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0
モリブデン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
リン酸トリス(2-エチルヘキシル)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4
小計	9.1	3.0	0.0	0.0	0.0	162.1
その他の物質51種	0.2	0.0	0.0	0.0	0.03	0.3
合計	9.3	3.0	0.0	0.0	0.03	162.3
ダイオキシン類*	7.1	9.5×10 <sup>-4</sup>	0.0	0.0	0.0	0.1

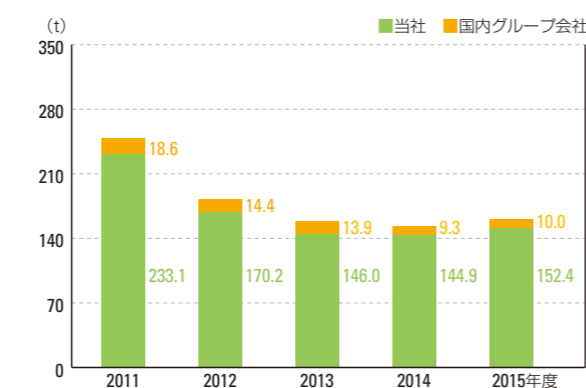
\*ダイオキシン類:単位:mg-TEQ

PRTR 排出量推移



※ 国内グループ会社の水域への排出はありません。

PRTR 移動量推移



### マネジメントシステムの取得状況

#### ▶ ISO 14001 (環境マネジメントシステム)

- 1996年12月 三重工場
- 1998年 3月 鹿島工場、鹿島工場西製造所
- 2000年 4月 富士工場
- 2000年 5月 千葉工場
- 2000年 8月 相馬工場
- 2001年 3月 明石工場
- 2001年 3月 オキシラン化学(株)
- 2003年 2月 (株)東京環境測定センター
- 2006年 1月 ADEKA KOREA CORP.
- 2006年 7月 艾迪科精細化工(常熟)有限公司
- 2007年 2月 台湾艾迪科精密化学股份有限公司
- 2007年 9月 AMFINE CHEMCAL CORP.
- 2009年 1月 艾迪科精細化工(上海)有限公司
- 2009年 8月 艾迪科食品(常熟)有限公司
- 2010年 1月 ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.
- 2010年 8月 ADEKA PALMAROLE SAS

#### ▶ OHSAS 18001 (労働安全衛生マネジメントシステム)

- 2000年 9月 三重工場
- 2002年11月 鹿島工場、鹿島工場西製造所
- 2002年12月 相馬工場
- 2003年 3月 明石工場
- 2003年10月 千葉工場
- 2003年12月 富士工場
- 2007年 6月 台湾艾迪科精密化学股份有限公司
- 2009年 7月 艾迪科精細化工(常熟)有限公司
- 2009年 8月 艾迪科食品(常熟)有限公司
- 2010年 4月 ADEKA KOREA CORP.
- 2013年12月 ADEKA PALMAROLE SAS

#### ▶ ISO 22000 (食品安全マネジメントシステム)

- 2007年 4月 艾迪科食品(常熟)有限公司
- 2009年 5月 ADEKA (SINGAPORE) PTE.LTD.

#### ▶ FSSC 22000 (食品安全マネジメントシステム)

- 2011年12月 鹿島工場西製造所
- 2014年12月 鹿島工場
- 2015年 3月 明石工場
- 2016年 4月 ADEKAファインフーズ(株)
- 2016年 5月 ADEKA (SINGAPORE) PTE.LTD.

#### ▶ HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point)

- 2002年 3月 鹿島工場
- 2004年 8月 ADEKA (SINGAPORE) PTE.LTD.
- 2015年 4月 ADEKA FOODS (ASIA)SDN.BHD.

#### ▶ ISO 9001 (品質マネジメントシステム)

- 1993年 6月 三重工場
- 1996年 4月 鹿島工場、鹿島工場西製造所
- 1997年 1月 富士工場
- 1997年 7月 千葉工場
- 1997年 7月 ADEKA PALMAROLE SAS
- 1997年10月 オキシラン化学(株)
- 1998年 8月 相馬工場
- 1999年10月 ADEKAクリーンエイド(株)
- 2000年 1月 ADEKA KOREA CORP.
- 2001年10月 AMFINE CHEMCAL CORP.
- 2002年 3月 ADEKA総合設備(株)
- 2004年 3月 国都化工(昆山)有限公司
- 2005年 5月 艾迪科精細化工(上海)有限公司
- 2005年 8月 (株)東京環境測定センター
- 2005年10月 艾迪科精細化工(常熟)有限公司
- 2005年11月 上原食品工業(株)
- 2006年 4月 ADEKA (SINGAPORE) PTE. LTD.
- 2006年 6月 FELDA IFFCO OIL PRODUCTS SDN.BHD.
- 2006年 7月 台湾艾迪科精密化学股份有限公司
- 2006年12月 ADEKA FINE CHEMICAL (THAILAND) CO.,LTD.
- 2012年 8月 ADEKA AL GHURAIR ADDITIVES LLC
- 2013年 3月 AM STABILIZERS CORP.

#### ▶ IMS (統合マネジメントシステム)

- 2004年12月 相馬工場
- 2008年12月 鹿島工場、鹿島工場西製造所
- 2009年12月 富士工場
- 2011年 8月 千葉工場

#### ▶ TPM賞受賞 (Total Productive Maintenance)

- 1994年 優秀賞 千葉工場
- 1995年 優秀賞 三重工場
- 1995年 優秀賞 オキシラン化学(株)
- 2004年 優秀賞 明石工場
- 2007年 優秀賞(特別賞) 鹿島工場、鹿島工場西製造所
- 2010年 優秀賞(カテゴリーA) 富士工場

#### ▶ ISO 14064-1 (温室効果ガス排出量・削減量の算定・報告・検証に関する規格)

- 2013年 3月 台湾艾迪科精密化学股份有限公司

#### ▶ ISO 22301 (事業継続マネジメントシステム)

- 2013年11月 本社関連部署および相馬工場